

第26回「市民の声」アンケート集計結果

1 調査目的

市民参加による市政を進めるなかで、市政全般について市民の意識、意見などの傾向を調査し、今後の政策に反映させていくための参考資料とするもの。

2 調査項目

質問数は全体で80問。住んでいる地区、年齢、職業などの基本調査項目6問のほか、桐生市第六次総合計画の指標の一つである「市民実感度」に則った基本調査項目6分野・42問と、事業課から調査項目として要望のあった15分野・32問で構成されている。また、提言、意見などを記入していただく自由意見記入欄を設けた。

3 調査設計

(1) 調査区域	市内全域
(2) 調査対象	18歳以上の市民
(3) 対象者数	1,500人
(4) 抽出方法	無作為抽出
(5) 調査方法	調査票を対象者に郵便で送付し、郵送またはインターネット回答により回収
(6) 調査期間	令和7年7月11日～31日

4 回収結果

(1) 発送調査対象数	1,500人	(A)
(2) 回収調査対象数	741人	(B)
(3) 回収率	49.4%	$(B/A \times 100)$
(4) 自由意見記入欄記載者数(件数)	295人	(560件)
(5) インターネット回答者数(回答割合)	169人	(22.8%)

5 備 考

- (1) 集計表中の構成比は回答総数に対する割合で示しているが、複数回答については回答者数に対する割合で示している。(※「回答率」と表示)
- (2) 表やグラフの作成にあたり、パーセントの算出については、小数点以下第2位を四捨五入するなどの調整を行っている。

6 資 料

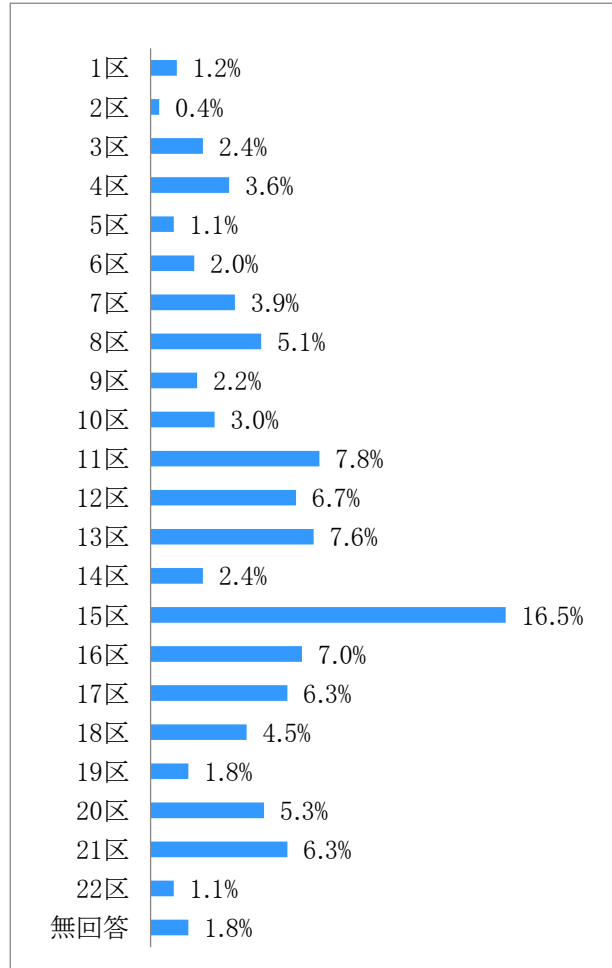
- (1) 第26回「市民の声」アンケート集計表
- (2) 第26回「市民の声」アンケート自由意見集約結果

第 26 回「市民の声」アンケート集計表

基本調査項目

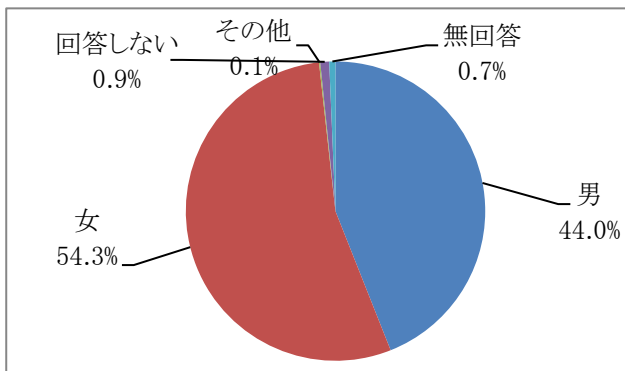
問 1 あなたのお住まいの地区に○をつけてください。

	回答数	構成比
1 区	9	1.2%
2 区	3	0.4%
3 区	18	2.4%
4 区	27	3.6%
5 区	8	1.1%
6 区	15	2.0%
7 区	29	3.9%
8 区	38	5.1%
9 区	16	2.2%
10 区	22	3.0%
11 区	58	7.8%
12 区	50	6.7%
13 区	56	7.6%
14 区	18	2.4%
15 区	122	16.5%
16 区	52	7.0%
17 区	47	6.3%
18 区	33	4.5%
19 区	13	1.8%
20 区	39	5.3%
21 区	47	6.3%
22 区	8	1.1%
無回答	13	1.8%
計	741	100.0%



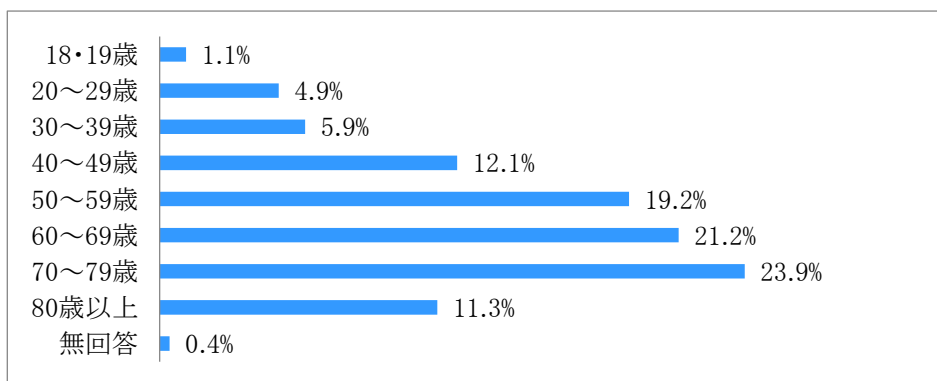
問 2 あなたの性別を選択してください。

	回答数	構成比
男	326	44.0%
女	402	54.3%
その他	1	0.1%
回答しない	7	0.9%
無回答	5	0.7%
計	741	100.0%



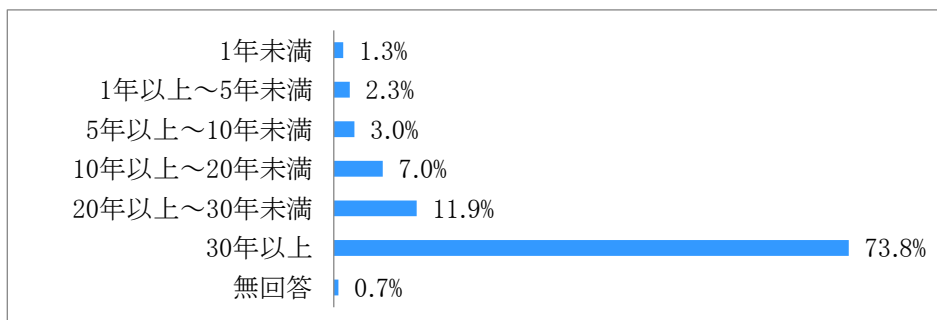
問3 あなたの年齢はおいくつですか。

	回答数	構成比
18・19歳	8	1.1%
20～29歳	36	4.9%
30～39歳	44	5.9%
40～49歳	90	12.1%
50～59歳	142	19.2%
60～69歳	157	21.2%
70～79歳	177	23.9%
80歳以上	84	11.3%
無回答	3	0.4%
計	741	100.0%



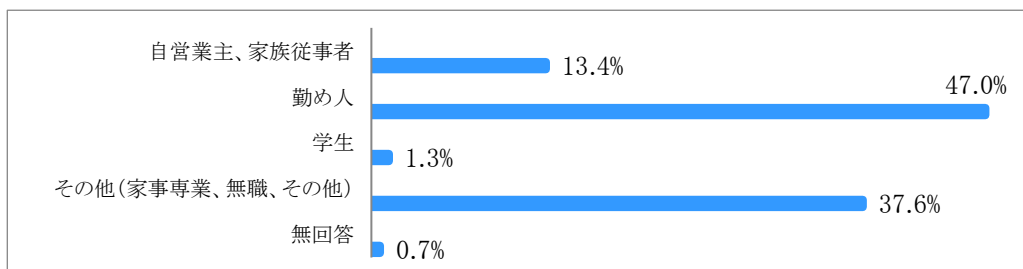
問4 あなたは桐生市に住んでどのくらいになりますか。

	回答数	構成比
1年未満	10	1.3%
1年以上～5年未満	17	2.3%
5年以上～10年未満	22	3.0%
10年以上～20年未満	52	7.0%
20年以上～30年未満	88	11.9%
30年以上	547	73.8%
無回答	5	0.7%
計	741	100.0%



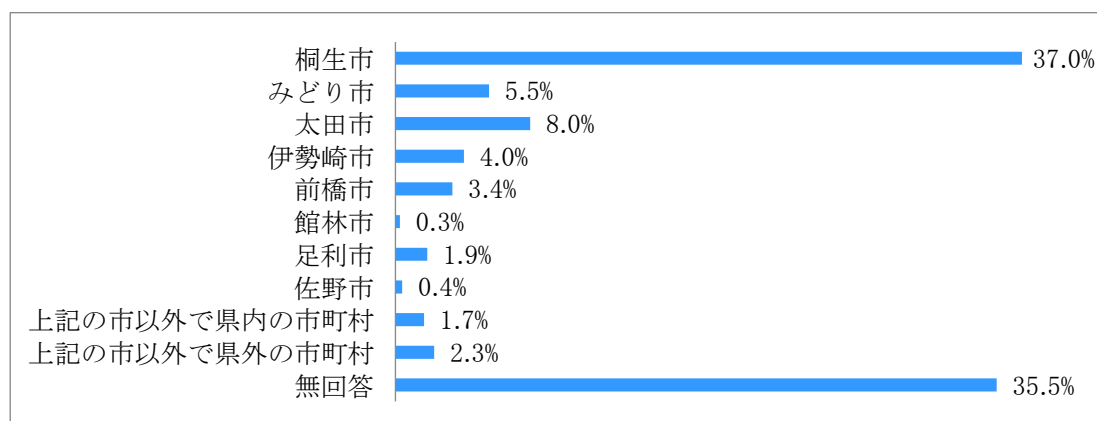
問5 あなたの職業に○をつけてください。兼業の方は、本業と思われるほうに○をつけてください。

	回答	構成比
自営業主、家族従事者(農・林・漁業、会社・工場・商店などの経営、自由業)	99	13.4%
勤め人(会社・工場・商店・官公庁などに勤務、パート・アルバイト含む)	348	47.0%
学生	10	1.3%
その他(家事専業、無職、その他)	279	37.6%
無回答	5	0.7%
計	741	100.0%



問6 あなたの勤務先(事業所・工場・商店などの所在地)や通学先はどちらですか。

	回答数	構成比
桐生市	274	37.0%
みどり市	41	5.5%
太田市	59	8.0%
伊勢崎市	30	4.0%
前橋市	25	3.4%
館林市	2	0.3%
足利市	14	1.9%
佐野市	3	0.4%
上記の市以外で県内の市町村	13	1.7%
上記の市以外で県外の市町村	17	2.3%
無回答	263	35.5%
計	741	100.0%



問7 あなたの暮らしやお住まいの地区、桐生市についてお聞きします。次の項目について、あなたの実感に最も近いものに○をつけてください。

本設問は、桐生市におけるまちづくりの指針となる桐生市第六次総合計画（計画期間：2020 年度～2027 年度）において、行政分野に関する市民の実感度を計画推進に当たっての目標指標の一つとするために設定したもので、今後、各種施策を推進することにより、市民実感度の向上を図るものである。なお、各設問に対して「大いに感じる」と「やや感じる」と回答した割合を合わせたものを、「感じる」として「市民実感度」と捉えている。

1. 産業経済の振興（産業、観光）

「企業誘致に取り組み、工場の建設などが進んでいる」、「中心市街地、商店街はにぎわっている」の設問では、前回調査時に比べ、市民実感度（感じる）（以下、問7では「感じる」という。）の割合が増加し、「感じない」と「あまり感じない」の合計（以下、問7では「感じない」という。）の割合は減少した。また、農林業の活力に関する設問では、前回調査時に比べ、「感じる」及び「感じない」と回答した割合がそれぞれ増加した。

2. 福祉・健康の増進（福祉、健康、医療）

「お住まいの地区には困っている人を見かけたときに声をかけたり協力したりしやすい雰囲気がある」の設問では、前回調査時に比べ、「感じる」と回答した割合が増加し、「感じない」と回答した割合が減少した結果、「感じる」が「感じない」を上回る結果となった。

一方、子育て支援、高齢者福祉、障害、医療などに関する設問では、前回調査時に比べ、「感じる」と回答した割合が減少し、「感じない」と回答した割合が増加した。

3. 教育・文化の向上（教育、生涯学習、芸術・文化、スポーツ）

「お住まいの地区では子どもが社会で生活していく上で必要な学力や体力、生活習慣などをしっかり身につけている」、「児童・生徒・保護者のための教育に関する相談・支援体制が充実している」、「お住まいの地区では子どもが健全に育っている」、「生涯にわたって学習できる環境が充実している」、「自分は桐生市の芸術や文化、文化財に愛着や誇りを感じる」の設問では、前回調査時に比べ「感じる」と回答した割合が増加し、「感じない」と回答した割合が減少した。

また、運動する環境に関する設問においては、前回調査時に比べ、「感じる」及び「感じない」と回答した割合がそれぞれ増加した。

4. 生活環境の向上（環境、安全・安心）

「自分は節電や環境に配慮した製品の購入など日頃から地球環境に配慮した生活をしている」、「自分は日頃から、ごみの減量や資源のリサイクルを意識して生活をしている」、「消防や救急の体制が十分に整っている」、「お住まいの地区は治安が良く、安心して暮らすことができる」の設問では、前回調査時と同様に、「感じる」と回答した割合が50%を超え、「感じない」と回答した割合が15%を下回った。

なお、消費者のための情報提供や相談体制に関する設問では、前回調査時に比べ、「感じる」及び「感じない」と回答した割合が増加した。

5. 都市基盤の整備（都市基盤）

「お住まいの地区はいつでも安心して水道が使える」、「お住まいの地区では下水道の整備や各家庭での浄化槽設置などが進められ、快適に暮らすことができる」、「桐生市の自然環境は良い」の設問では、前回調査時と同様に、「感じる」と回答した割合が70%を超え、「感じない」と回答した割合が10%を下回った。

また、「重伝建地区をはじめとする歴史的まち並みを生かしたまちづくりが進んでいる」、「市中心部や周辺都市へ快適にアクセスできる道路網が整っている」の設問では、前回調査時に比べ「感じる」と回答した割合が増加し、「感じない」と回答した割合が減少した。

6. 計画推進のために（協働、行政運営）

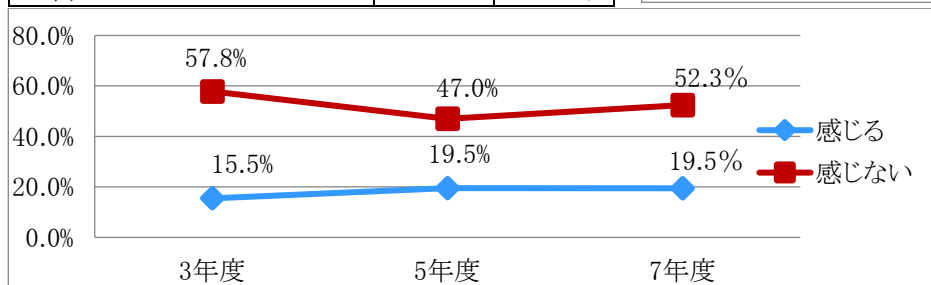
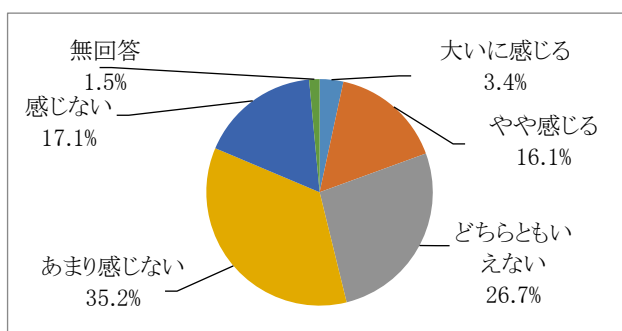
「国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいまちである」、「効率的な行政運営が行われ、必要な行政サービスが提供されている」の設問では、前回調査時に比べ「感じる」と回答した割合が増加し、「感じない」と回答した割合が減少した。また、まちとしての価値や魅力や、市民の声を適切に聴き取り、積極的に情報を発信しているのかとの設問では、前回調査時に比べ、「感じる」と回答した割合が減少し、「感じない」と回答した割合が増加した結果、「感じない」が「感じる」を上回る結果となった。

1. 産業経済の振興（産業、観光）

1. 桐生市のもづくり産業は元気で活力がある

「大いに感じる」(3.4%)と「やや感じる」(16.1%)の合計は19.5%と市民実感度が前回調査時と同じになっているが、「感じない」(17.1%)と「あまり感じない」(35.2%)の合計52.3%を32.8ポイント下回っている。

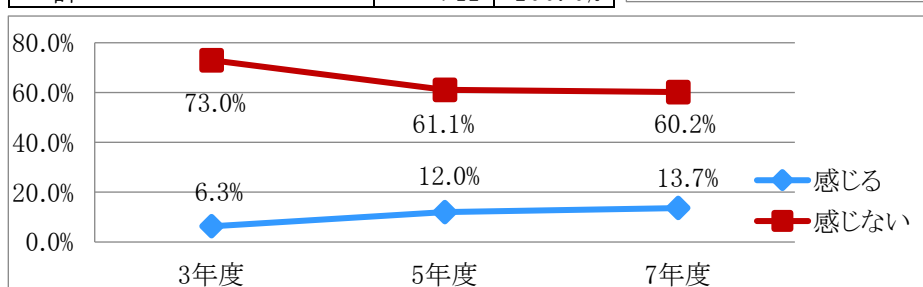
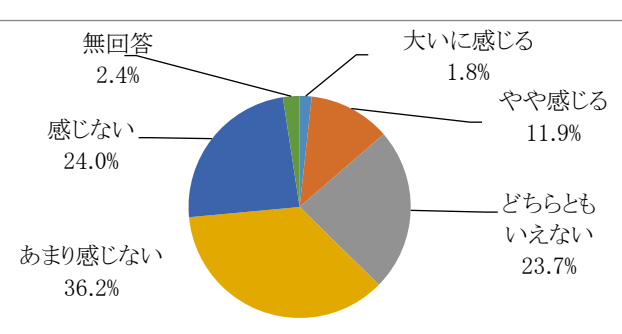
	回答数	構成比
大いに感じる	25	3.4%
やや感じる	119	16.1%
どちらともいえない	198	26.7%
あまり感じない	261	35.2%
感じない	127	17.1%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%



2. 桐生市は企業誘致に取り組み、工場の建設などが進んでいる

「大いに感じる」(1.8%)と「やや感じる」(11.9%)の合計は13.7%と市民実感度が前回調査時の12.0%から1.7ポイント増加しているが、「感じない」(24.0%)と「あまり感じない」(36.2%)の合計60.2%を46.5ポイント下回っている。

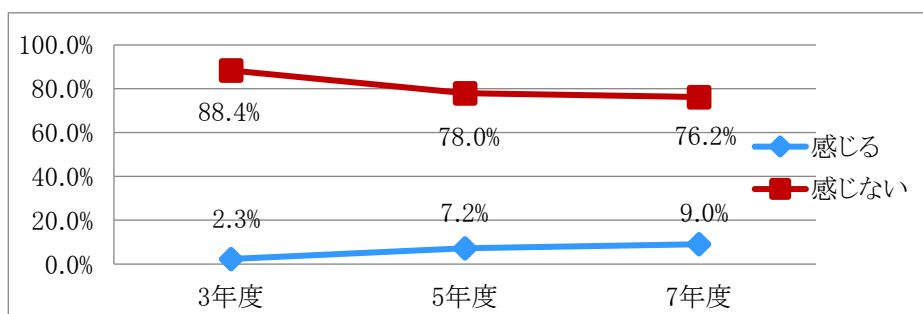
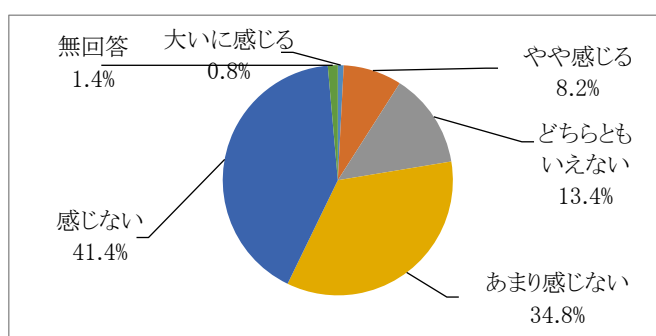
	回答数	構成比
大いに感じる	13	1.8%
やや感じる	88	11.9%
どちらともいえない	176	23.7%
あまり感じない	268	36.2%
感じない	178	24.0%
無回答	18	2.4%
計	741	100.0%



3. 桐生市の中心市街地、商店街はにぎわっている

「大いに感じる」(0.8%)と「やや感じる」(8.2%)の合計は9.0%と市民実感度が前回調査時の7.2%から1.8ポイント増加しているが、「感じない」(41.4%)と「あまり感じない」(34.8%)の合計76.2%を67.2ポイント下回っている。

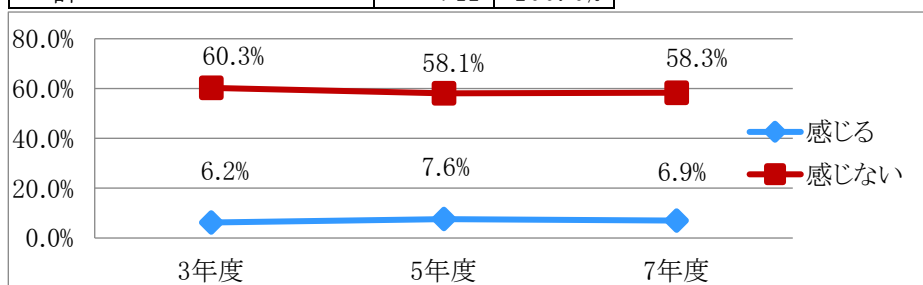
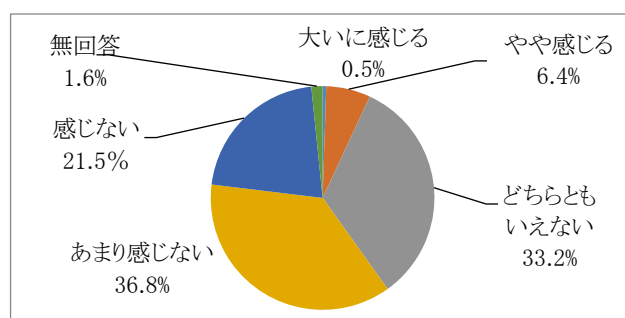
	回答数	構成比
大いに感じる	6	0.8%
やや感じる	61	8.2%
どちらともいえない	99	13.4%
あまり感じない	258	34.8%
感じない	307	41.4%
無回答	10	1.4%
計	741	100.0%



4. 桐生市は働きやすい環境が整っている

「大いに感じる」(0.5%)と「やや感じる」(6.4%)の合計は6.9%と市民実感度が前回調査時の7.6%から0.7ポイント減少しており、「感じない」(21.5%)と「あまり感じない」(36.8%)の合計58.3%を51.4ポイント下回っている。

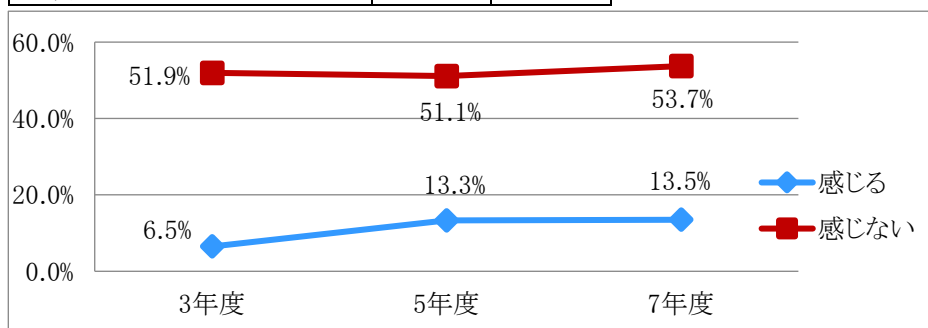
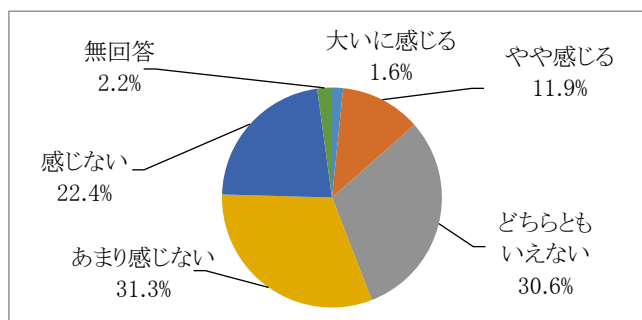
	回答数	構成比
大いに感じる	4	0.5%
やや感じる	47	6.4%
どちらともいえない	246	33.2%
あまり感じない	273	36.8%
感じない	159	21.5%
無回答	12	1.6%
計	741	100.0%



5. 桐生市の農林業は元気で活力がある

「大いに感じる」(1.6%)と「やや感じる」(11.9%)の合計は13.5%と市民実感が前回調査時の13.3%から0.2ポイント増加しているが、「感じない」(22.4%)と「あまり感じない」(31.3%)の合計53.7%を40.2ポイント下回っている。

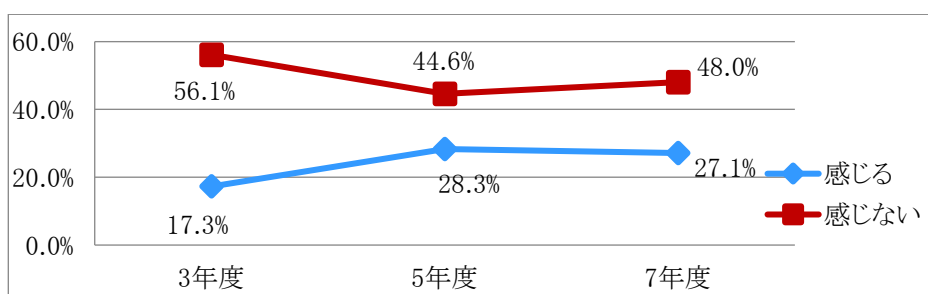
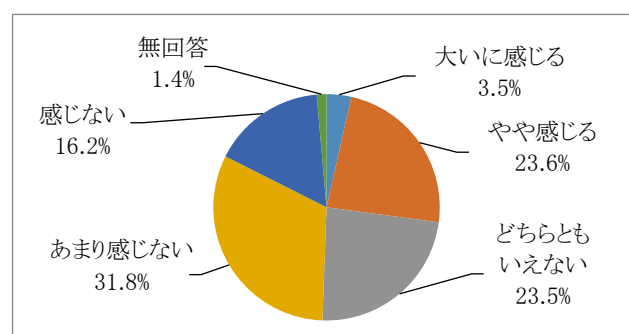
	回答数	構成比
大いに感じる	12	1.6%
やや感じる	88	11.9%
どちらともいえない	227	30.6%
あまり感じない	232	31.3%
感じない	166	22.4%
無回答	16	2.2%
計	741	100.0%



6. 桐生市は観光地として市外から人が訪れたい魅力のあるまちである

「大いに感じる」(3.5%)と「やや感じる」(23.6%)の合計は27.1%と市民実感が前回調査時の28.3%から1.2ポイント減少しており、「感じない」(16.2%)と「あまり感じない」(31.8%)の合計48.0%を20.9ポイント下回っている。

	回答数	構成比
大いに感じる	26	3.5%
やや感じる	175	23.6%
どちらともいえない	174	23.5%
あまり感じない	236	31.8%
感じない	120	16.2%
無回答	10	1.4%
計	741	100.0%

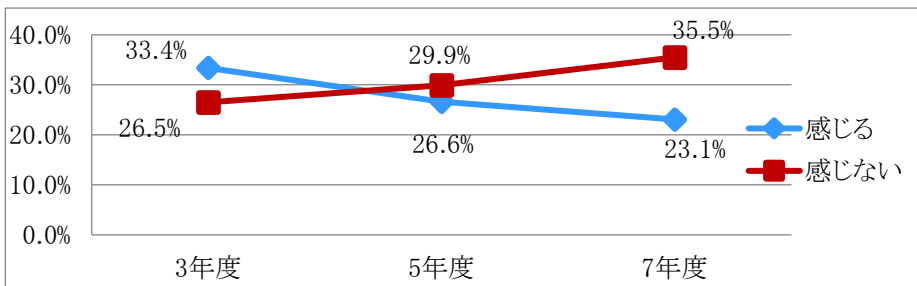
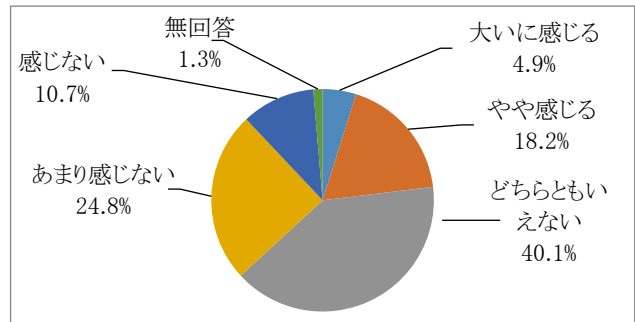


2. 福祉・健康の増進（福祉、健康、医療）

1. 桐生市は安心して子どもを産み、育てることができるまちである

「大いに感じる」(4.9%)と「やや感じる」(18.2%)の合計は23.1%と市民実感度が前回調査時の26.6%から3.5ポイント減少しており、「感じない」(10.7%)と「あまり感じない」(24.8%)の合計35.5%を12.4ポイント下回っている。

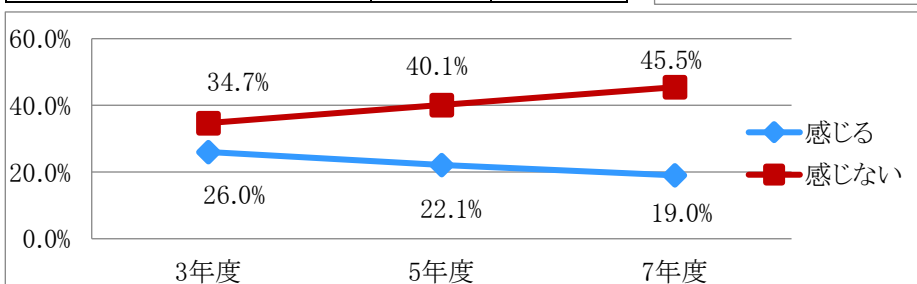
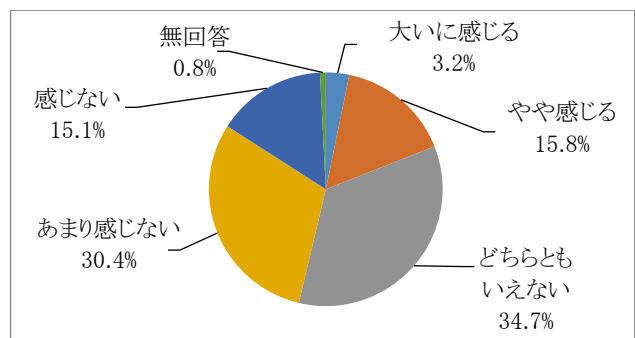
	回答数	構成比
大いに感じる	36	4.9%
やや感じる	135	18.2%
どちらともいえない	297	40.1%
あまり感じない	184	24.8%
感じない	79	10.7%
無回答	10	1.3%
計	741	100.0%



2. 桐生市は高齢者にとって暮らしやすいまちである

「大いに感じる」(3.2%)と「やや感じる」(15.8%)の合計は19.0%と市民実感度が前回調査時の22.1%から3.1ポイント減少しており、「感じない」(15.1%)と「あまり感じない」(30.4%)の合計45.5%を26.5ポイント下回っている。

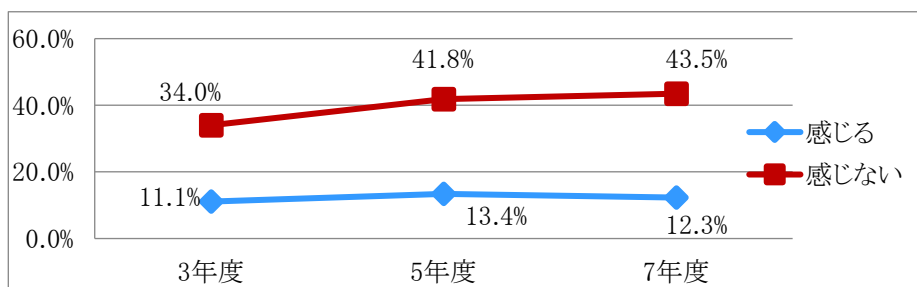
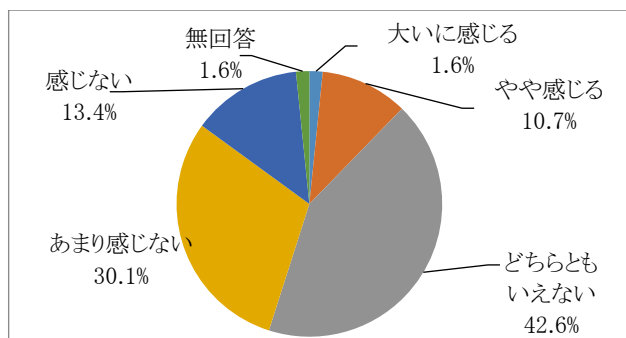
	回答数	構成比
大いに感じる	24	3.2%
やや感じる	117	15.8%
どちらともいえない	257	34.7%
あまり感じない	225	30.4%
感じない	112	15.1%
無回答	6	0.8%
計	741	100.0%



3. 桐生市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちである

「大いに感じる」(1.6%)と「やや感じる」(10.7%)の合計は 12.3%と市民実感が前回調査時の 13.4%から 1.1 ポイント減少しており、「感じない」(13.4%)と「あまり感じない」(30.1%)の合計 43.5%を 31.2 ポイント下回っている。

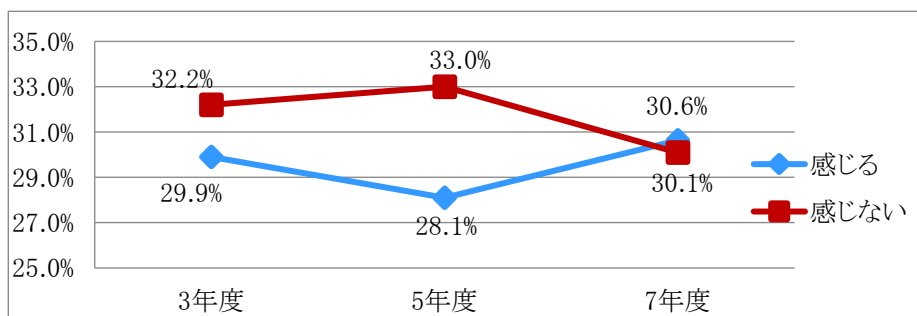
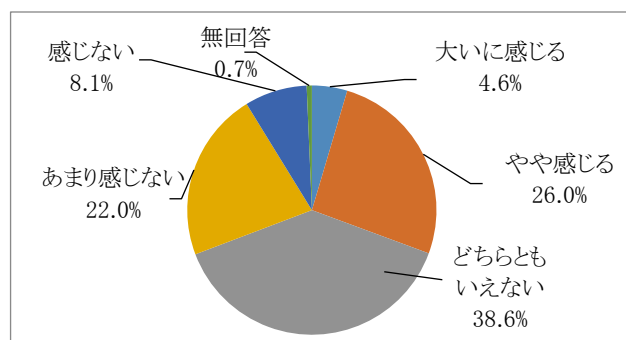
	回答数	構成比
大いに感じる	12	1.6%
やや感じる	79	10.7%
どちらともいえない	316	42.6%
あまり感じない	223	30.1%
感じない	99	13.4%
無回答	12	1.6%
計	741	100.0%



4. お住まいの地区には困っている人を見かけたときに声をかけたり協力したりしやすい雰囲気がある

「大いに感じる」(4.6%)と「やや感じる」(26.0%)の合計は 30.6%と市民実感が前回調査時の 28.1%から 2.5 ポイント増加しており、「感じない」(8.1%)と「あまり感じない」(22.0%)の合計 30.1%を 0.5 ポイント上回っている。

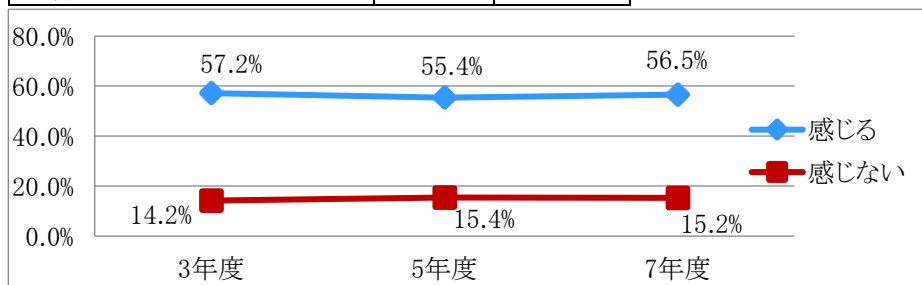
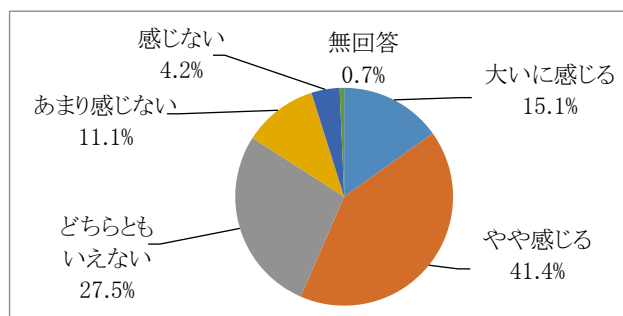
	回答数	構成比
大いに感じる	34	4.6%
やや感じる	193	26.0%
どちらともいえない	286	38.6%
あまり感じない	163	22.0%
感じない	60	8.1%
無回答	5	0.7%
計	741	100.0%



5. 自分は心身ともに健康的な生活を送ることができている

「大いに感じる」(15.1%)と「やや感じる」(41.4%)の合計は 56.5%と市民実感度が前回調査時の 55.4%から 1.1 ポイント増加しており、「感じない」(4.2%)と「あまり感じない」(11.1%)の合計 15.3%を 41.2 ポイント上回っている。

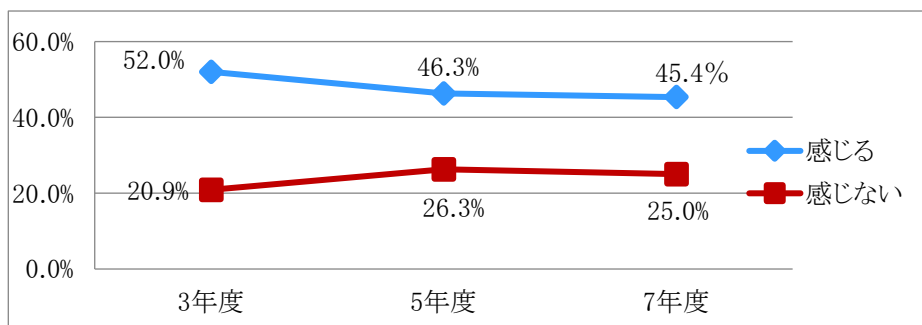
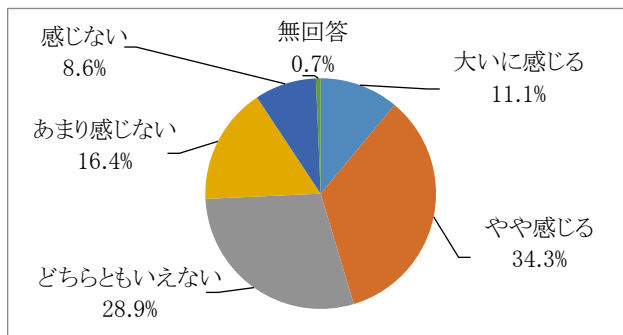
	回答数	構成比
大いに感じる	112	15.1%
やや感じる	307	41.4%
どちらともいえない	204	27.5%
あまり感じない	82	11.1%
感じない	31	4.2%
無回答	5	0.7%
計	741	100.0%



6. お住まいの地区には安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実している

「大いに感じる」(11.1%)と「やや感じる」(34.3%)の合計は 45.4%と市民実感度が前回調査時の 46.3%から 0.9 ポイント減少しているが、「感じない」(8.6%)と「あまり感じない」(16.4%)の合計 25.0%を 20.4 ポイント上回っている。

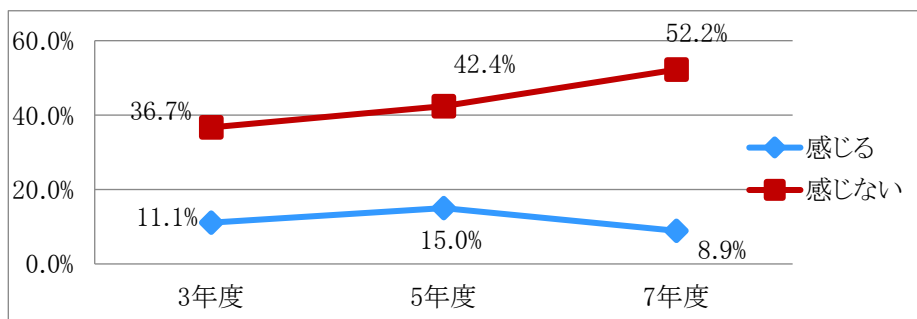
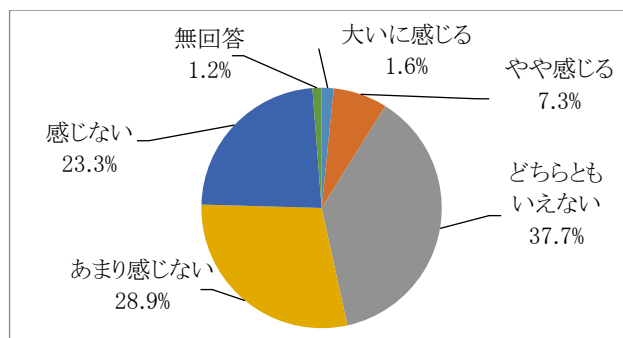
	回答数	構成比
大いに感じる	82	11.1%
やや感じる	254	34.3%
どちらともいえない	214	28.9%
あまり感じない	122	16.4%
感じない	64	8.6%
無回答	5	0.7%
計	741	100.0%



7. 桐生市は経済的に弱い立場の人の生活を支える仕組みや自立を促す仕組みが整っている

「大いに感じる」(1.6%)と「やや感じる」(7.3%)の合計は8.9%と市民実感度が前回調査時の15.0%から6.1ポイント減少しており、「感じない」(23.3%)と「あまり感じない」(28.9%)の合計52.2%を43.3ポイント下回っている。

	回答数	構成比
大いに感じる	12	1.6%
やや感じる	54	7.3%
どちらともいえない	279	37.7%
あまり感じない	214	28.9%
感じない	173	23.3%
無回答	9	1.2%
計	741	100.0%

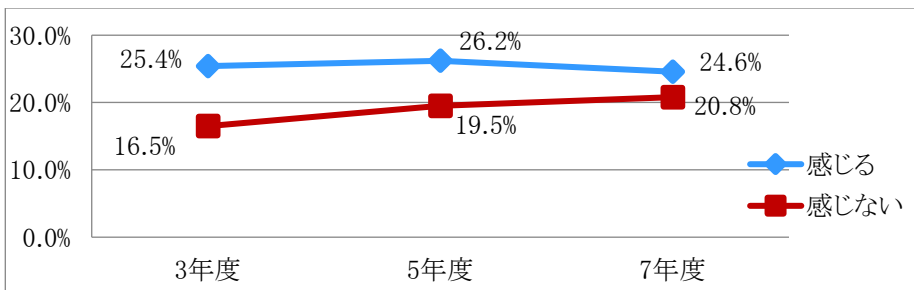
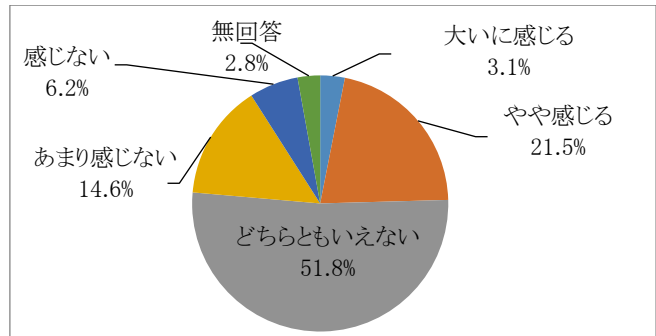


3. 教育・文化の向上（教育、生涯学習、芸術・文化、スポーツ）

1. お住まいの地区では子どもが社会で生活していく上で必要な学力や体力、生活習慣などをしっかり身につけている

「大いに感じる」(3.1%)と「やや感じる」(21.5%)の合計は24.6%と市民実感度が前回調査時の26.2%から1.6ポイント減少しているが、「感じない」(6.2%)と「あまり感じない」(14.6%)の合計20.8%を3.8ポイント上回っている。

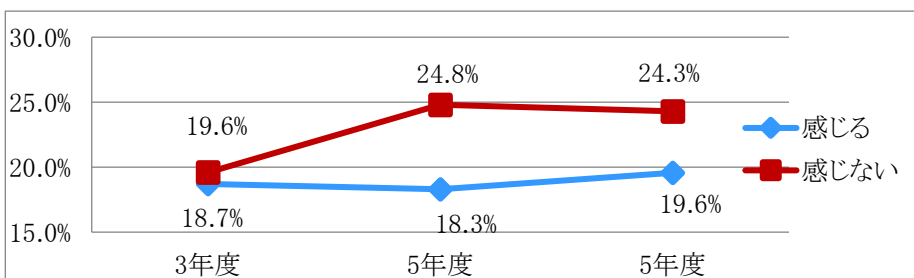
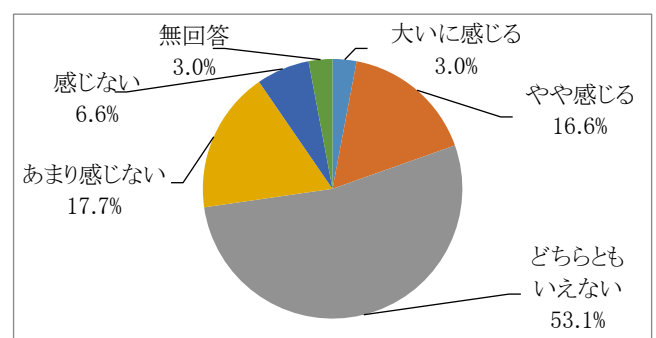
	回答数	構成比
大いに感じる	23	3.1%
やや感じる	159	21.5%
どちらともいえない	384	51.8%
あまり感じない	108	14.6%
感じない	46	6.2%
無回答	21	2.8%
計	741	100.0%



2. 桐生市は児童・生徒・保護者のための教育に関する相談・支援体制が充実している

「大いに感じる」(3.0%)と「やや感じる」(16.6%)の合計は19.6%と市民実感度が前回調査時の18.3%から1.3ポイント増加しているが、「感じない」(6.6%)と「あまり感じない」(17.7%)の合計24.3%を4.7ポイント下回っている。

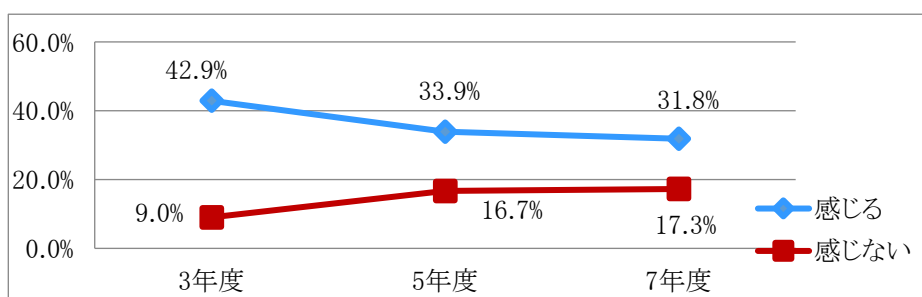
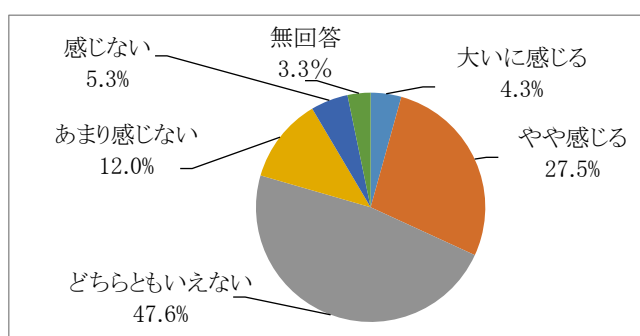
	回答数	構成比
大いに感じる	22	3.0%
やや感じる	123	16.6%
どちらともいえない	394	53.1%
あまり感じない	131	17.7%
感じない	49	6.6%
無回答	22	3.0%
計	741	100.0%



3. お住まいの地区では子どもが健全に育っている

「大いに感じる」(4.3%)と「やや感じる」(27.5%)の合計は31.8%と市民実感度が前回調査時の33.9%から2.1ポイント減少しているが、「感じない」(5.3%)と「あまり感じない」(12.0%)の合計17.3%を14.5ポイント上回っている。

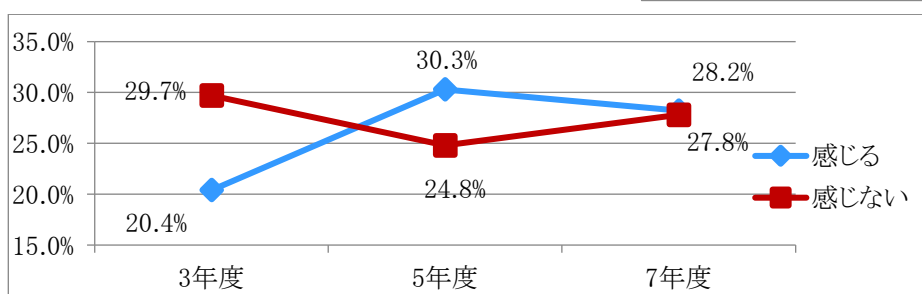
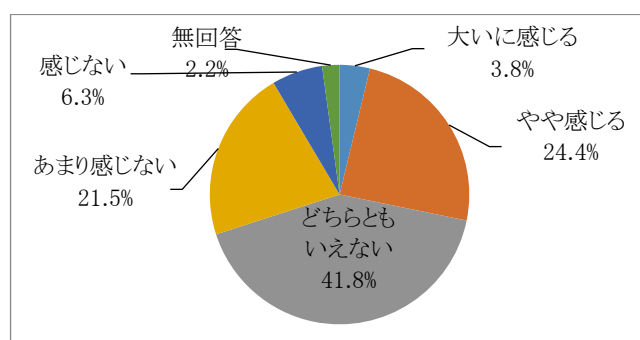
	回答数	構成比
大いに感じる	32	4.3%
やや感じる	204	27.5%
どちらともいえない	353	47.6%
あまり感じない	89	12.0%
感じない	39	5.3%
無回答	24	3.3%
計	741	100.0%



4. 桐生市は生涯にわたって学習できる環境が充実している

「大いに感じる」(3.8%)と「やや感じる」(24.4%)の合計は28.2%と市民実感度が前回調査時の30.3%から2.1ポイント減少しているが、「感じない」(6.3%)と「あまり感じない」(21.5%)の合計27.8%を0.4ポイント上回っている。

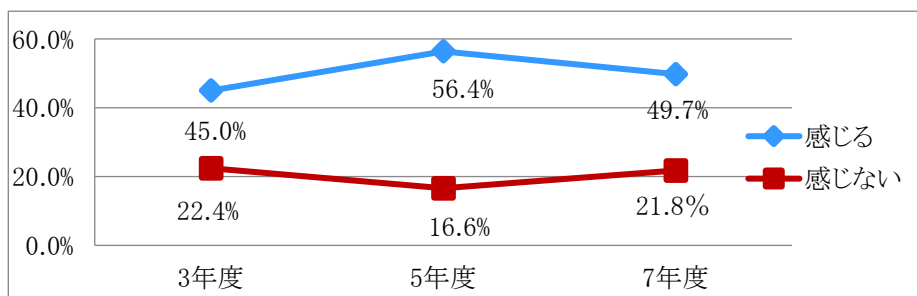
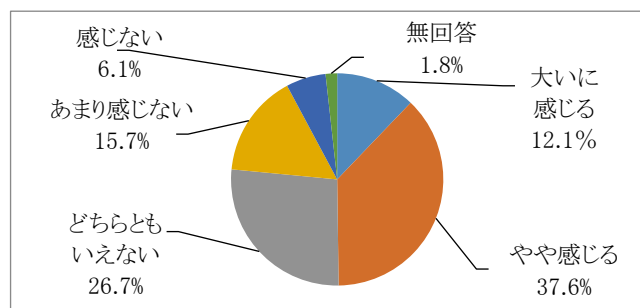
	回答数	構成比
大いに感じる	28	3.8%
やや感じる	181	24.4%
どちらともいえない	310	41.8%
あまり感じない	159	21.5%
感じない	47	6.3%
無回答	16	2.2%
計	741	100.0%



5. 自分は桐生市の芸術や文化、文化財に愛着や誇りを感じる

「大いに感じる」(12.1%)と「やや感じる」(37.6%)の合計は 49.7%と市民実感度が前回調査時の 56.4%から 6.7 ポイント減少しているが、「感じない」(6.1%)と「あまり感じない」(15.7%)の合計 21.8%を 27.9 ポイント上回っている。

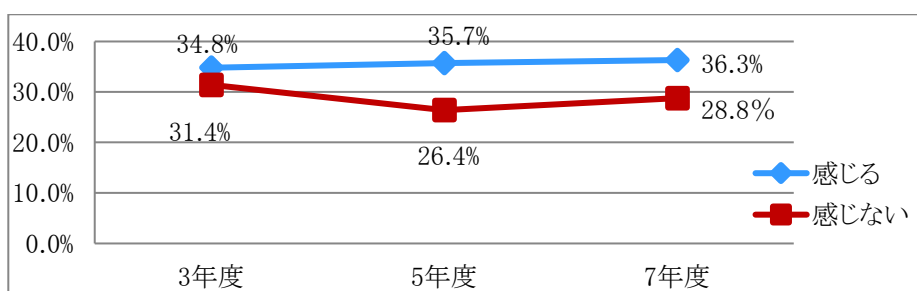
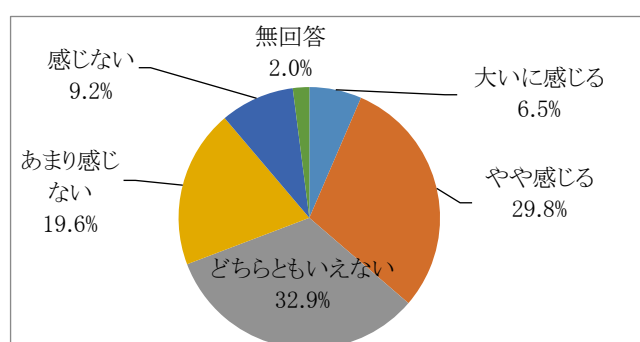
	回答数	構成比
大いに感じる	90	12.1%
やや感じる	279	37.6%
どちらともいえない	198	26.7%
あまり感じない	116	15.7%
感じない	45	6.1%
無回答	13	1.8%
計	741	100.0%



6. 桐生市には気軽に運動をする場所や機会、体を動かしたりする環境が整っている

「大いに感じる」(6.5%)と「やや感じる」(29.8%)の合計は 36.3%と市民実感度が前回調査時の 35.7%から 0.6 ポイント増加しており、「感じない」(9.2%)と「あまり感じない」(19.6%)の合計 28.8%を 7.5 ポイント上回っている。

	回答数	構成比
大いに感じる	48	6.5%
やや感じる	221	29.8%
どちらともいえない	244	32.9%
あまり感じない	145	19.6%
感じない	68	9.2%
無回答	15	2.0%
計	741	100.0%

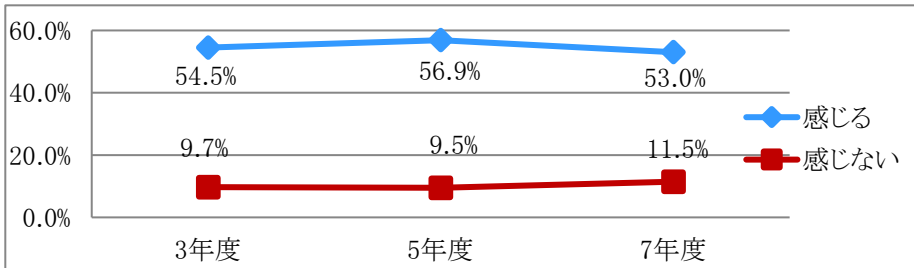
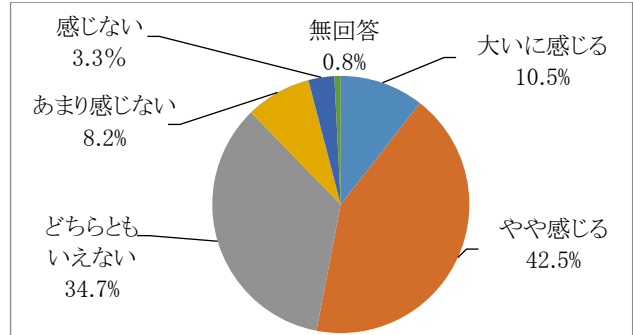


4. 生活環境の向上（環境、安全・安心）

1. 自分は節電や環境に配慮した製品の購入など日頃から地球環境に配慮した生活をしている

「大いに感じる」(10.5%)と「やや感じる」(42.5%)の合計は 53.0%と市民実感度が前回調査時の 56.9%から 3.9 ポイント減少しているが、「感じない」(3.3%)と「あまり感じない」(8.2%)の合計 11.5%を 41.5 ポイント上回っている。

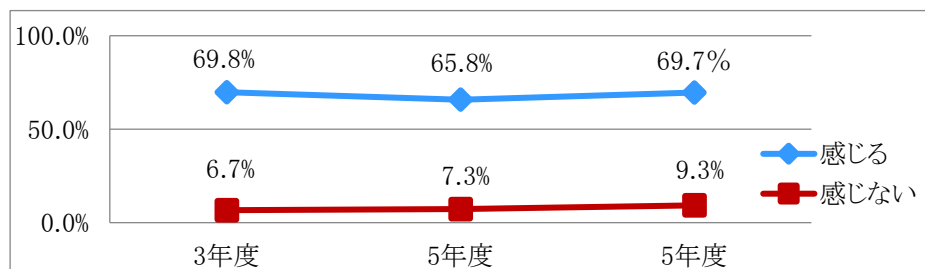
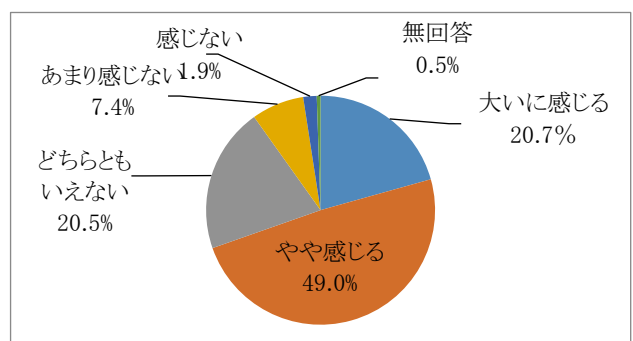
	回答数	構成比
大いに感じる	78	10.5%
やや感じる	315	42.5%
どちらともいえない	257	34.7%
あまり感じない	61	8.2%
感じない	24	3.3%
無回答	6	0.8%
計	741	100.0%



2. 自分は日頃から、ごみの減量や資源のリサイクルを意識して生活をしている

「大いに感じる」(20.7%)と「やや感じる」(49.0%)の合計は 69.7%と市民実感度が前回調査時の 65.8%から 3.9 ポイント増加しており、「感じない」(1.9%)と「あまり感じない」(7.4%)の合計 9.3%を 60.4 ポイント上回っている。

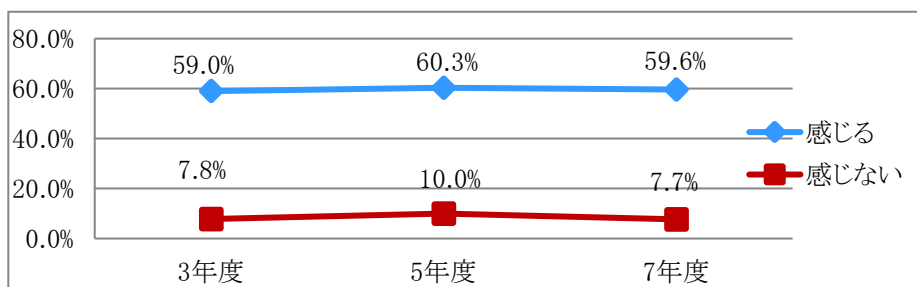
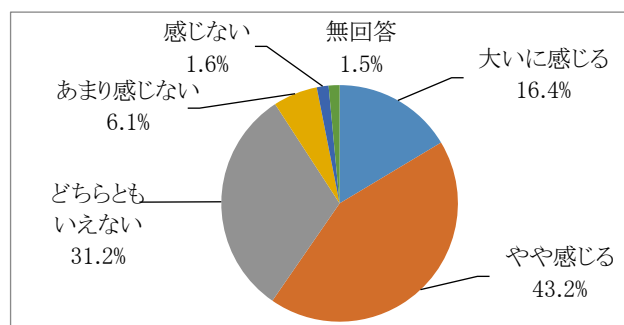
	回答数	構成比
大いに感じる	153	20.7%
やや感じる	363	49.0%
どちらともいえない	152	20.5%
あまり感じない	55	7.4%
感じない	14	1.9%
無回答	4	0.5%
計	741	100.0%



3. 桐生市は消防や救急の体制が十分に整っている

「大いに感じる」(16.4%)と「やや感じる」(43.2%)の合計は 59.6%と市民実感が前回調査時の 60.3%から 0.7 ポイント減少しているが、「感じない」(1.6%)と「あまり感じない」(6.1%)の合計 7.7%を 51.9 ポイント上回っている。

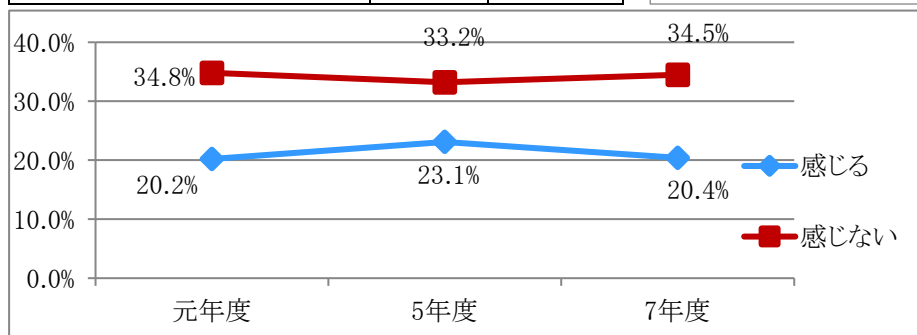
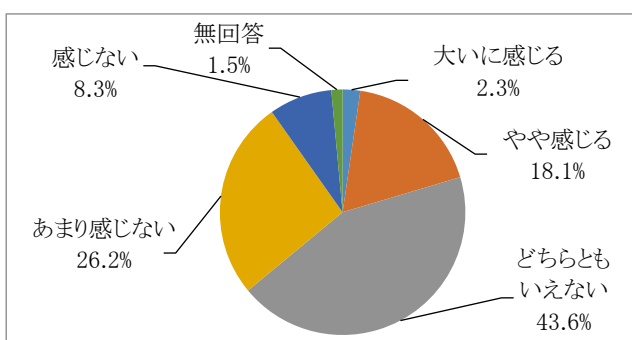
	回答数	構成比
大いに感じる	122	16.4%
やや感じる	320	43.2%
どちらともいえない	231	31.2%
あまり感じない	45	6.1%
感じない	12	1.6%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%



4. 自分は災害（地震・火災・風水害）に対する備えが十分であるという安心感を持っている

「大いに感じる」(2.3%)と「やや感じる」(18.1%)の合計は 20.4%と市民実感が前回調査時の 23.1%から 2.7 ポイント減少しており、「感じない」(8.3%)と「あまり感じない」(26.2%)の合計 34.5%を 14.1 ポイント下回っている。

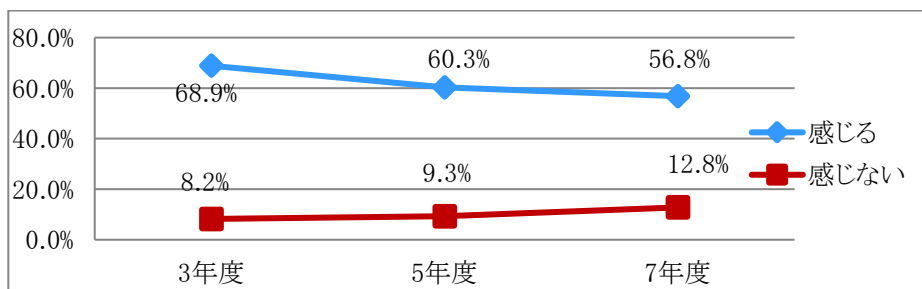
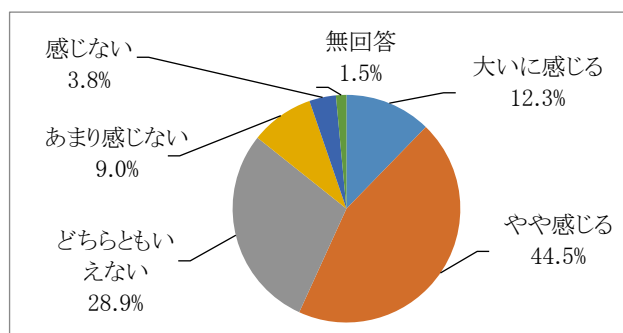
	回答数	構成比
大いに感じる	17	2.3%
やや感じる	134	18.1%
どちらともいえない	323	43.6%
あまり感じない	194	26.2%
感じない	62	8.3%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%



5. お住まいの地区は治安が良く、安心して暮らすことができる

「大いに感じる」(12.3%)と「やや感じる」(44.5%)の合計は56.8%と市民実感が前回調査時の60.3%から3.5ポイント減少しているが、「感じない」(3.8%)と「あまり感じない」(9.0%)の合計12.8%を44.0ポイント上回っている。

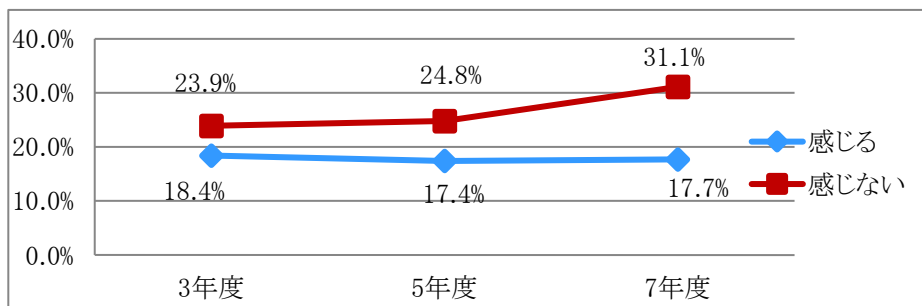
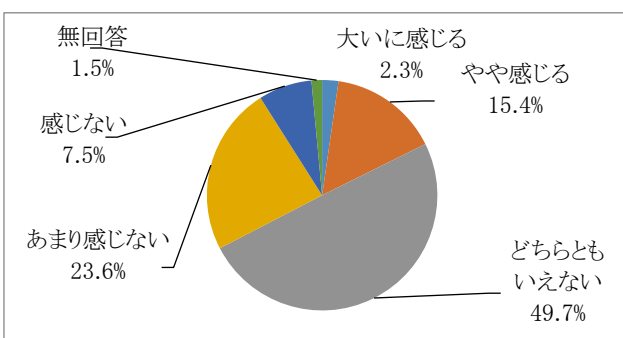
	回答数	構成比
大いに感じる	91	12.3%
やや感じる	330	44.5%
どちらともいえない	214	28.9%
あまり感じない	67	9.0%
感じない	28	3.8%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%



6. 桐生市は消費者のための情報提供や相談体制が十分に整っている

「大いに感じる」(2.3%)と「やや感じる」(15.4%)の合計は17.7%と市民実感が前回調査時の17.4%から0.3ポイント増加しているが、「感じない」(7.5%)と「あまり感じない」(23.6%)の合計31.1%を13.4ポイント下回っている。

	回答数	構成比
大いに感じる	17	2.3%
やや感じる	114	15.4%
どちらともいえない	368	49.7%
あまり感じない	175	23.6%
感じない	56	7.5%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%

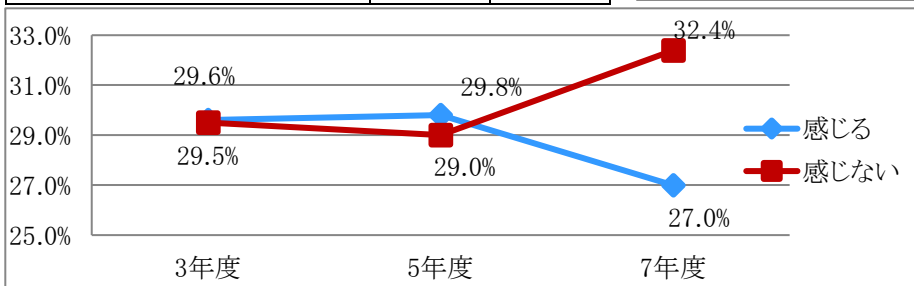
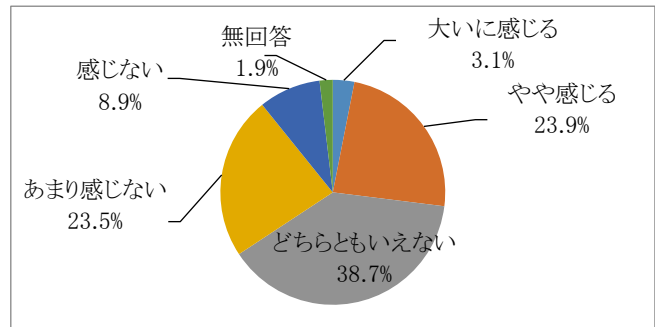


5. 都市基盤の整備（都市基盤）

1. 桐生市は地域の特性を踏まえた、良好な景観のあるまちづくりができています

「大いに感じる」(3.1%)と「やや感じる」(23.9%)の合計は27.0%と市民実感が前回調査時の29.8%から2.8ポイント減少しており、「感じない」(8.9%)と「あまり感じない」(23.5%)の合計32.4%を5.4ポイント下回っている。

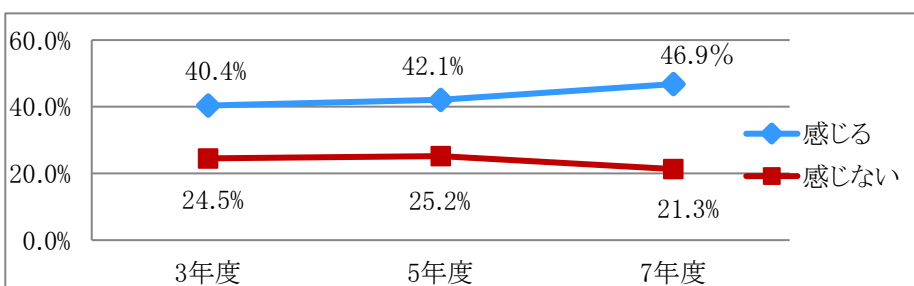
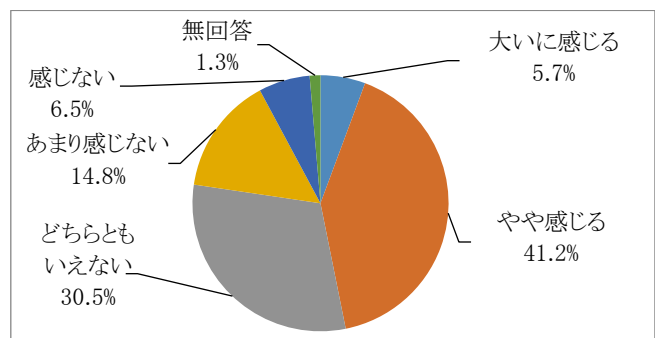
	回答数	構成比
大いに感じる	23	3.1%
やや感じる	177	23.9%
どちらともいえない	287	38.7%
あまり感じない	174	23.5%
感じない	66	8.9%
無回答	14	1.9%
計	741	100.0%



2. 桐生市は重伝建地区をはじめとする歴史的まち並みを生かしたまちづくりが進んでいる

「大いに感じる」(5.7%)と「やや感じる」(41.2%)の合計は46.9%と市民実感が前回調査時の42.1%から4.8ポイント増加しており、「感じない」(6.5%)と「あまり感じない」(14.8%)の合計21.3%を25.6ポイント上回っている。

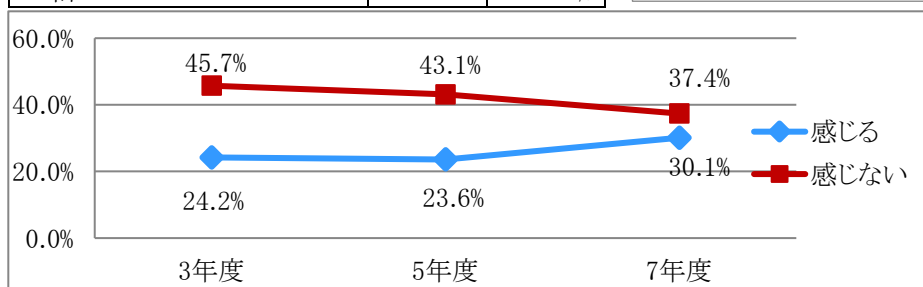
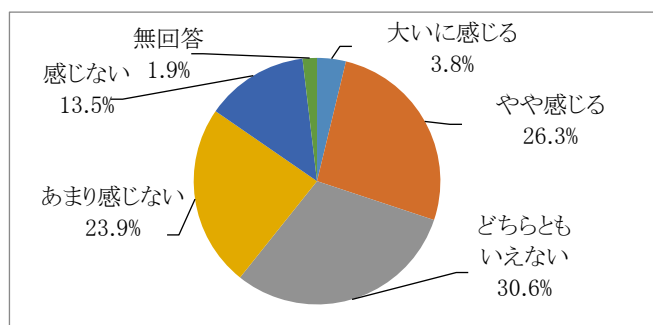
	回答数	構成比
大いに感じる	42	5.7%
やや感じる	305	41.2%
どちらともいえない	226	30.5%
あまり感じない	110	14.8%
感じない	48	6.5%
無回答	10	1.3%
計	741	100.0%



3. 桐生市は市中心部や周辺都市へ快適にアクセスできる道路網が整っている

「大いに感じる」(3.8%)と「やや感じる」(26.3%)の合計は30.1%と市民実感が前回調査時の23.6%から6.5ポイント増加しているが、「感じない」(13.5%)と「あまり感じない」(23.9%)の合計37.4%を7.3ポイント下回っている。

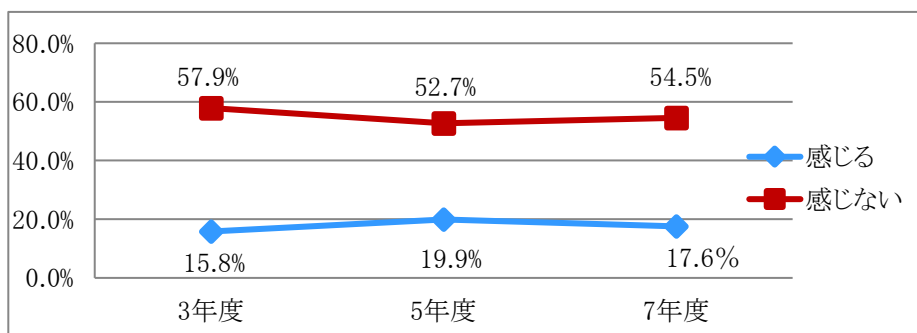
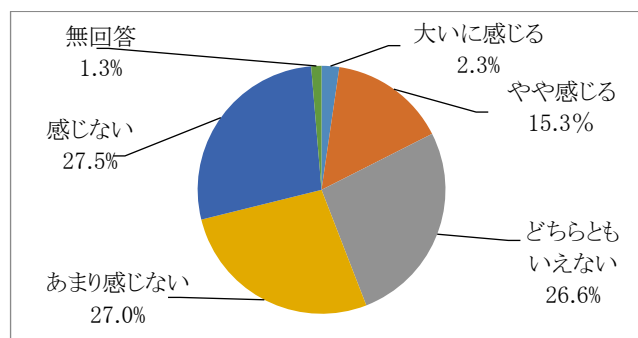
	回答数	構成比
大いに感じる	28	3.8%
やや感じる	195	26.3%
どちらともいえない	227	30.6%
あまり感じない	177	23.9%
感じない	100	13.5%
無回答	14	1.9%
計	741	100.0%



4. お住まいの地区の公共交通（鉄道やバス）は利便性が良い

「大いに感じる」(2.3%)と「やや感じる」(15.3%)の合計は17.6%と市民実感が前回調査時の19.9%から2.4ポイント減少しており、「感じない」(27.5%)と「あまり感じない」(27.0%)の合計54.5%を36.9ポイント下回っている。

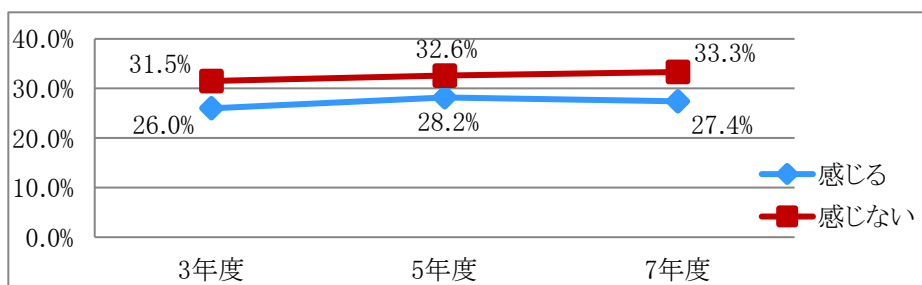
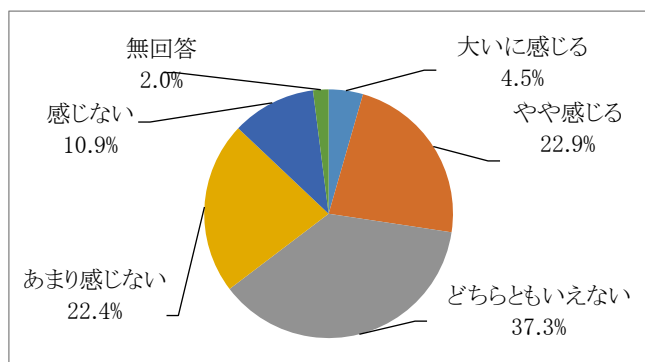
	回答数	構成比
大いに感じる	17	2.3%
やや感じる	113	15.3%
どちらともいえない	197	26.6%
あまり感じない	200	27.0%
感じない	204	27.5%
無回答	10	1.3%
計	741	100.0%



5. 桐生市は住み続けたいくなる生活の場としての住環境が整っている

「大いに感じる」(4.5%)と「やや感じる」(22.9%)の合計は 27.4%と市民実感度が前回調査時の 28.2%から 0.8 ポイント減少しており、「感じない」(10.9%)と「あまり感じない」(22.4%)の合計 33.3%を 5.9 ポイント下回っている。

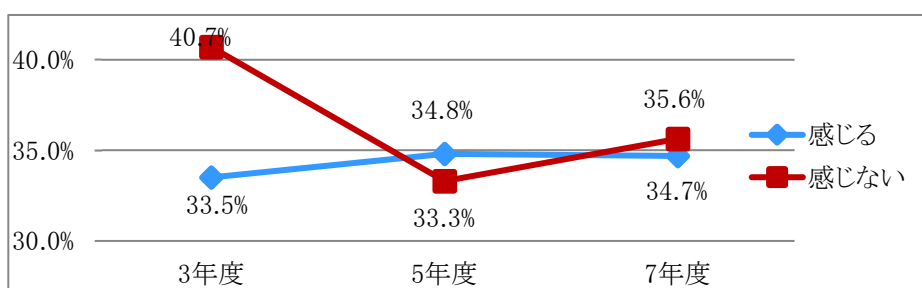
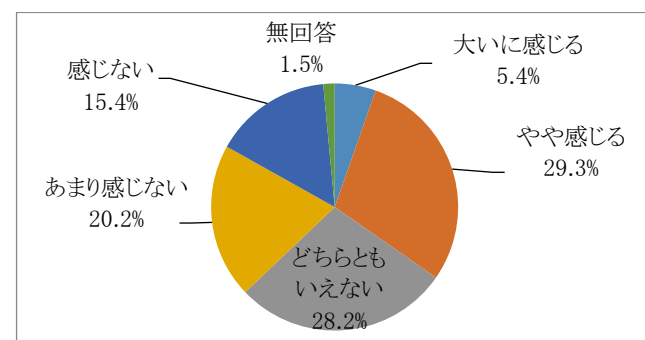
	回答数	構成比
大いに感じる	33	4.5%
やや感じる	170	22.9%
どちらともいえない	276	37.3%
あまり感じない	166	22.4%
感じない	81	10.9%
無回答	15	2.0%
計	741	100.0%



6. お住まいの地区には安全で快適に利用できる公園や、緑地が整備されている

「大いに感じる」(5.4%)と「やや感じる」(29.3%)の合計は 34.7%と市民実感度が前回調査時の 34.8%から 0.1 ポイント減少しており、「感じない」(15.4%)と「あまり感じない」(20.2%)の合計 35.6%を 0.9 ポイント下回っている。

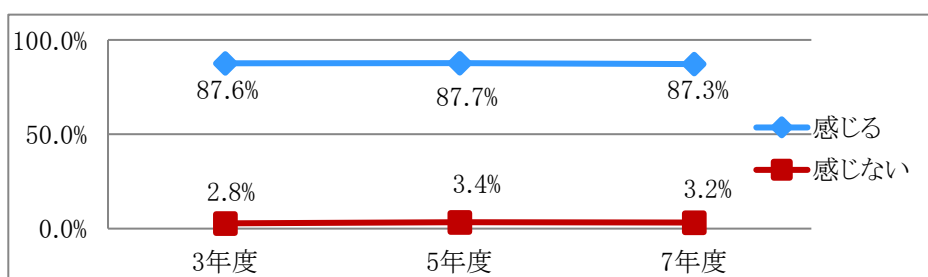
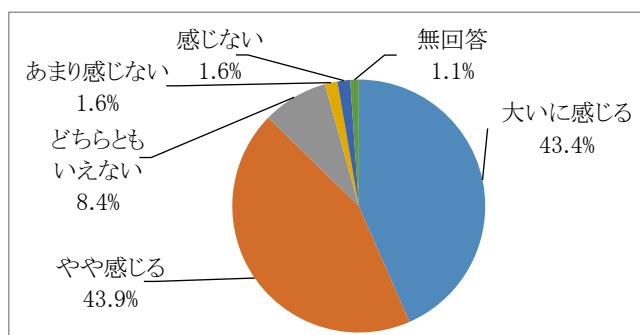
	回答数	構成比
大いに感じる	40	5.4%
やや感じる	217	29.3%
どちらともいえない	209	28.2%
あまり感じない	150	20.2%
感じない	114	15.4%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%



7. お住まいの地区はいつでも安心して水道が使える

「大いに感じる」(43.4%)と「やや感じる」(43.9%)の合計は 87.3%と市民実感度が前回調査時の 87.7%から 0.4 ポイント減少しているが、「感じない」(1.6%)と「あまり感じない」(1.6%)の合計 3.2%を 84.1 ポイント上回っている。

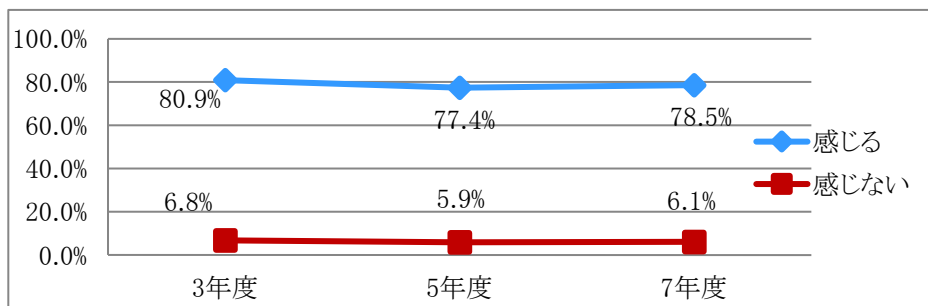
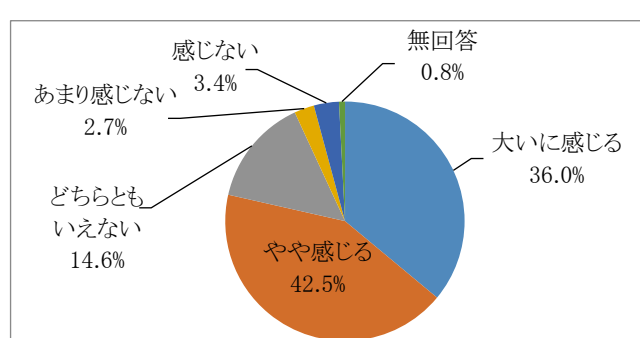
	回答数	構成比
大いに感じる	322	43.4%
やや感じる	325	43.9%
どちらともいえない	62	8.4%
あまり感じない	12	1.6%
感じない	12	1.6%
無回答	8	1.1%
計	741	100.0%



8. お住まいの地区では下水道の整備や各家庭での浄化槽設置などが進められ、快適に暮らすことができる

「大いに感じる」(36.0%)と「やや感じる」(42.5%)の合計は 78.5%と市民実感度が前回調査時の 77.4%から 1.1 ポイント増加しており、「感じない」(3.4%)と「あまり感じない」(2.7%)の合計 6.1%を 72.4 ポイント上回っている。

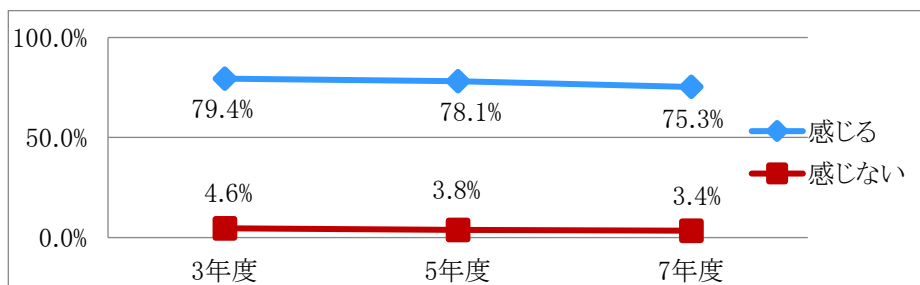
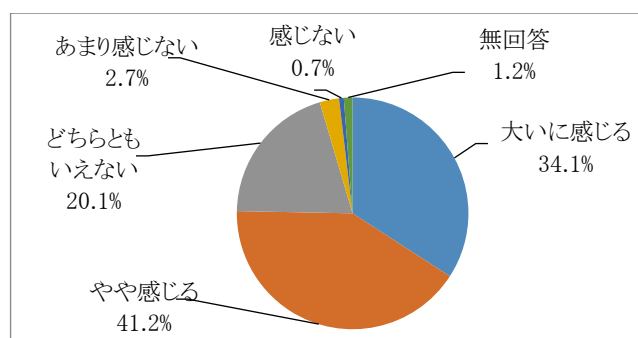
	回答数	構成比
大いに感じる	267	36.0%
やや感じる	315	42.5%
どちらともいえない	108	14.6%
あまり感じない	20	2.7%
感じない	25	3.4%
無回答	6	0.8%
計	741	100.0%



9. 桐生市の自然環境は良い

「大いに感じる」(34.1%)と「やや感じる」(41.2%)の合計は75.3%と市民実感度が前回調査時の78.1%から2.8ポイント減少しているが、「感じない」(0.7%)と「あまり感じない」(2.7%)の合計3.4%を71.9ポイント上回っている。

	回答数	構成比
大いに感じる	253	34.1%
やや感じる	305	41.2%
どちらともいえない	149	20.1%
あまり感じない	20	2.7%
感じない	5	0.7%
無回答	9	1.2%
計	741	100.0%

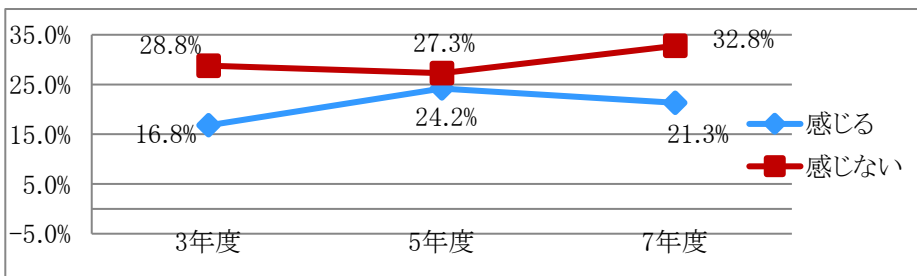
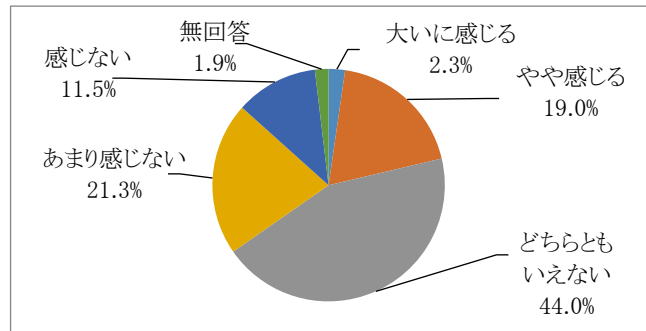


6. 計画推進のために（協働、行政運営）

1. 桐生市では地域の課題解決に市民と行政が協力して取り組んでいる

「大いに感じる」(2.3%)と「やや感じる」(19.0%)の合計は 21.3%と市民実感が前回調査時の 24.2%から 2.9 ポイント減少しており、「感じない」(11.5%)と「あまり感じない」(21.3%)の合計 32.8%を 11.5 ポイント下回っている。

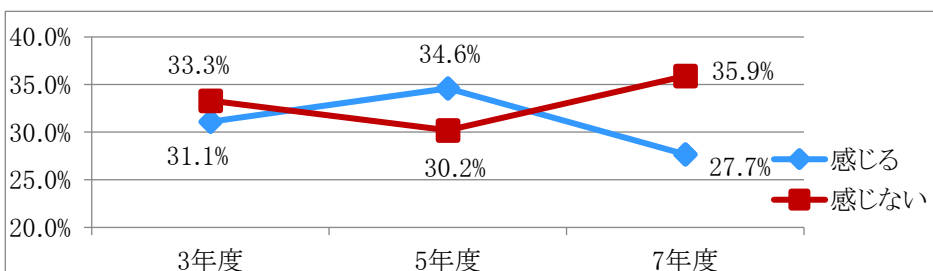
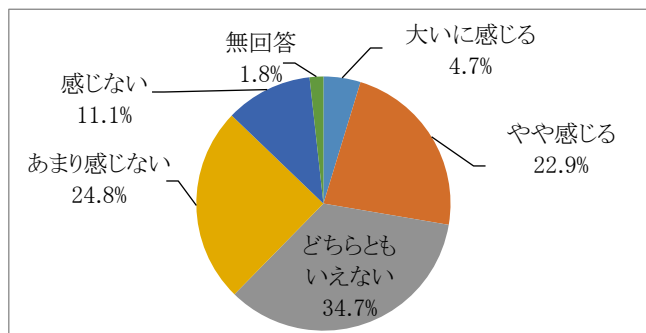
	回答数	構成比
大いに感じる	17	2.3%
やや感じる	141	19.0%
どちらともいえない	326	44.0%
あまり感じない	158	21.3%
感じない	85	11.5%
無回答	14	1.9%
計	741	100.0%



2. 自分は桐生市に対して、まちとしての価値や魅力を感じる

「大いに感じる」(4.7%)と「やや感じる」(22.9%)の合計は 27.6%と市民実感が前回調査時の 34.6%から 7.0 ポイント減少しており、「感じない」(11.1%)と「あまり感じない」(24.8%)の合計 35.9%を 8.3 ポイント下回っている。

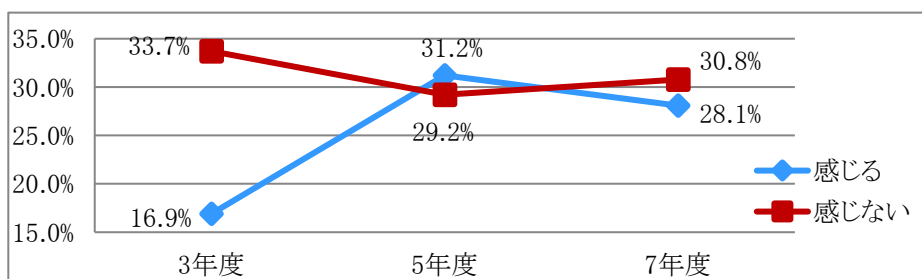
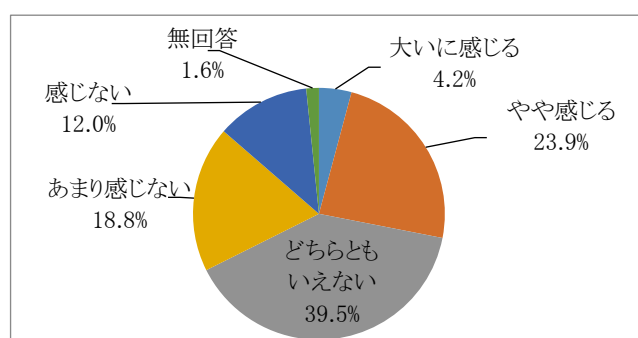
	回答数	構成比
大いに感じる	35	4.7%
やや感じる	170	22.9%
どちらともいえない	257	34.7%
あまり感じない	184	24.8%
感じない	82	11.1%
無回答	13	1.8%
計	741	100.0%



3. 桐生市は市民の声を適切に聴き取り、積極的に情報を発信している

「大いに感じる」(4.2%)と「やや感じる」(23.9%)の合計は28.1%と市民実感度が前回調査時の31.2%から3.1ポイント減少しており、「感じない」(12.0%)と「あまり感じない」(18.8%)の合計30.8%を2.7ポイント下回っている。

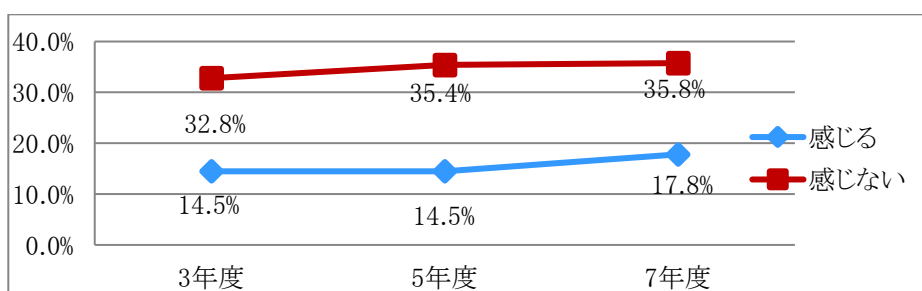
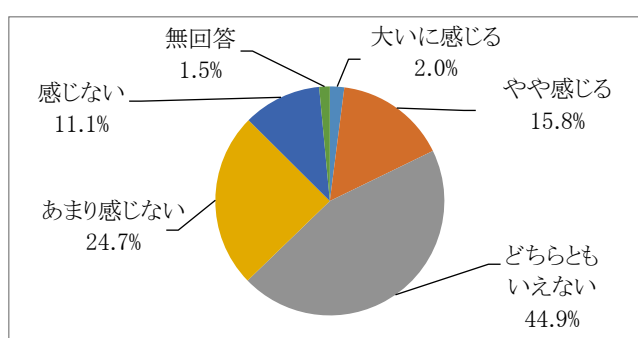
	回答数	構成比
大いに感じる	31	4.2%
やや感じる	177	23.9%
どちらともいえない	293	39.5%
あまり感じない	139	18.8%
感じない	89	12.0%
無回答	12	1.6%
計	741	100.0%



4. 桐生市は男女問わず誰もが家庭・職場・地域など、あらゆる場面で活躍できる環境が整っている

「大いに感じる」(2.0%)と「やや感じる」(15.8%)の合計は17.8%と市民実感度が前回調査時の14.5%から3.3ポイント増加しているが、「感じない」(11.1%)と「あまり感じない」(24.7%)の合計35.8%を18.0ポイント下回っている。

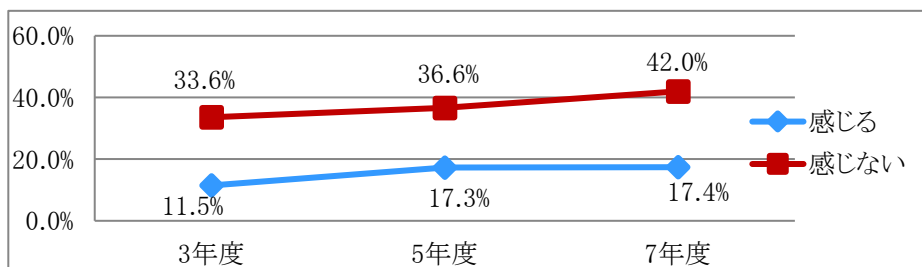
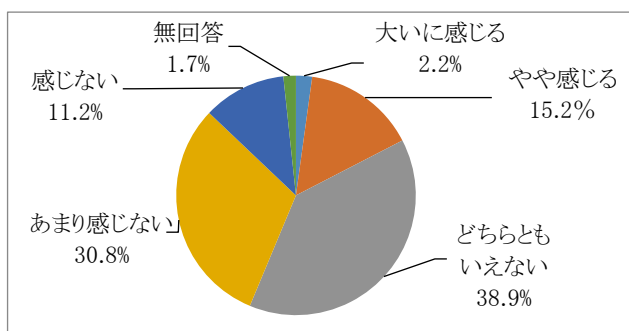
	回答数	構成比
大いに感じる	15	2.0%
やや感じる	117	15.8%
どちらともいえない	333	44.9%
あまり感じない	183	24.7%
感じない	82	11.1%
無回答	11	1.5%
計	741	100.0%



5. 桐生市は市民生活の利便性向上のために積極的に他の都市などと連携している

「大いに感じる」(2.2%)と「やや感じる」(15.2%)の合計は17.4%と市民実感度が前回調査時の17.3%から0.1ポイント増加しているが、「感じない」(11.2%)と「あまり感じない」(30.8%)の合計42.0%を24.6ポイント下回っている。

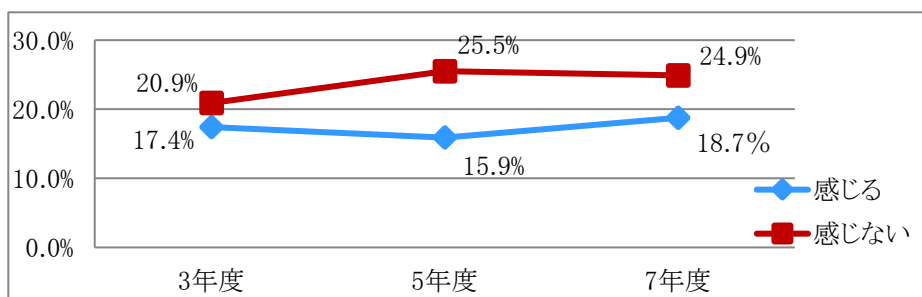
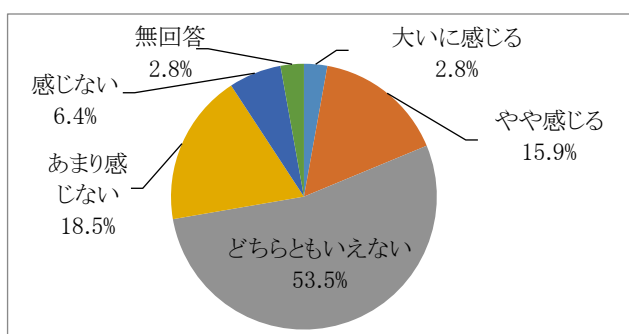
	回答数	構成比
大いに感じる	16	2.2%
やや感じる	113	15.2%
どちらともいえない	288	38.9%
あまり感じない	228	30.8%
感じない	83	11.2%
無回答	13	1.7%
計	741	100.0%



6. 桐生市は国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいまちである

「大いに感じる」(2.8%)と「やや感じる」(15.9%)の合計は18.7%と市民実感度が前回調査時の15.9%から2.8ポイント増加しているが、「感じない」(6.4%)と「あまり感じない」(18.5%)の合計24.9%を6.2ポイント下回っている。

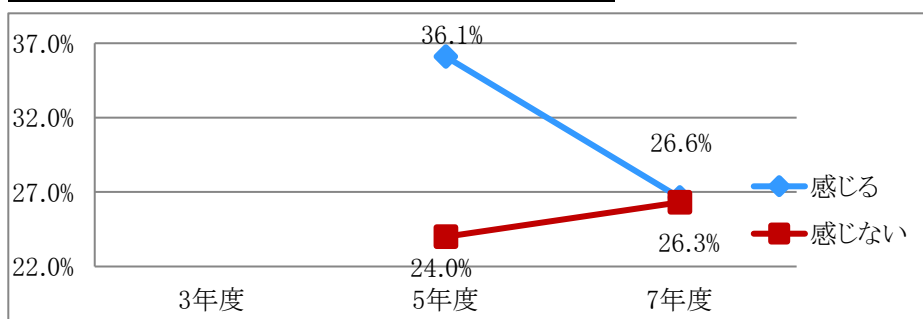
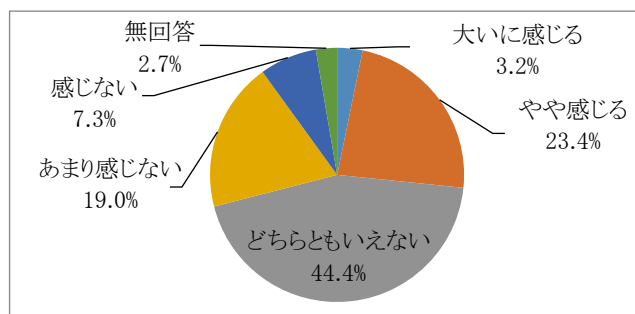
	回答数	構成比
大いに感じる	21	2.8%
やや感じる	118	15.9%
どちらともいえない	397	53.6%
あまり感じない	137	18.5%
感じない	47	6.4%
無回答	21	2.8%
計	741	100.0%



7. 桐生市ではデジタル化が推進されている

「大いに感じる」(3.2%)と「やや感じる」(23.4%)の合計は26.6%と市民実感度が前回調査時の36.1%から9.5ポイント減少しているが、「感じない」(7.3%)と「あまり感じない」(19.0%)の合計26.3%を0.3ポイント上回っている。

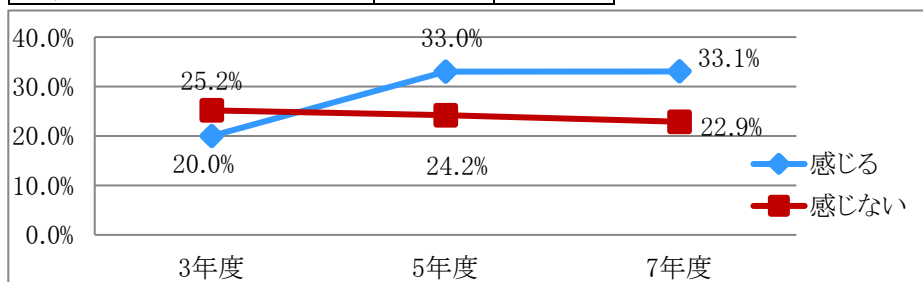
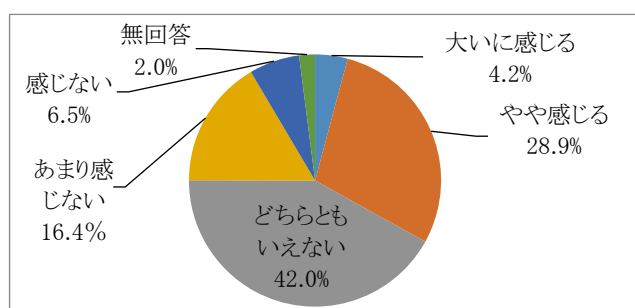
	回答数	構成比
大いに感じる	24	3.2%
やや感じる	173	23.4%
どちらともいえない	329	44.4%
あまり感じない	141	19.0%
感じない	54	7.3%
無回答	20	2.7%
計	741	100.0%



8. 桐生市では効率的な行政運営が行われ、必要な行政サービスが提供されている

「大いに感じる」(4.2%)と「やや感じる」(28.9%)の合計は33.1%と市民実感度が前回調査時の33.0%から0.1ポイント増加しており、「感じない」(6.5%)と「あまり感じない」(16.4%)の合計22.9%を10.2ポイント上回っている。

	回答数	構成比
大いに感じる	31	4.2%
やや感じる	214	28.9%
どちらともいえない	311	42.0%
あまり感じない	122	16.4%
感じない	48	6.5%
無回答	15	2.0%
計	741	100.0%

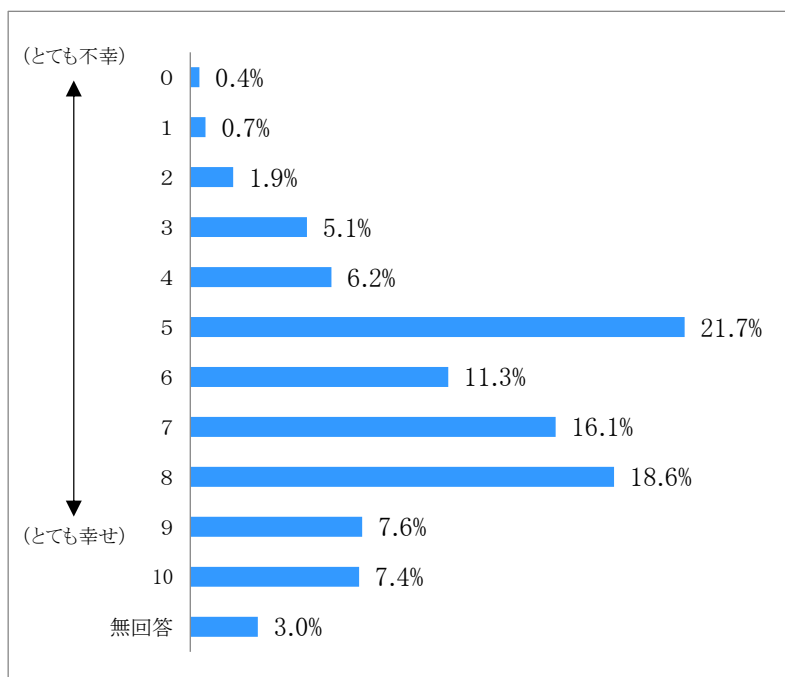


問8 現在、あなたはどの程度「幸せ」ですか。「とても幸せ」を10、「とても不幸」を0とすると、どのくらいになりますか。

0点から10点までの11段階で現在の幸福実感度をたずねたところ、中間点となる「5点」が21.7%と最も多く、次いで「8点」(18.6%)、「7点」(16.1%)、「6点」(11.3%)と続いている。無回答を除いた全体の平均は6.44点となっており、前回調査結果である5.87点と比べると0.57点増加している。この理由とすると、今回の調査結果においては、「0点」から「5点」と回答した人の合計が36.0%であったが、前回の調査結果よりも5.7ポイント減少している。また、「6点」から「10点」と回答した人の合計が61.0%であり、前回の調査結果よりも5.9ポイント増加したことなどが影響している。

なお、今回の調査結果では、中間点(5点)より上の点数である6点以上が61.0%と全体の約6割以上となっており、一方、中間点(5点)より下の点数である4点以下が14.3%と全体の約1.5割となっている。

		回答数	構成比
①	0	3	0.4%
②	1	5	0.7%
③	2	14	1.9%
④	3	38	5.1%
⑤	4	46	6.2%
⑥	5	161	21.7%
⑦	6	84	11.3%
⑧	7	119	16.1%
⑨	8	138	18.6%
⑩	9	56	7.6%
⑪	10	55	7.4%
	無回答	22	3.0%
	計	741	100.0%



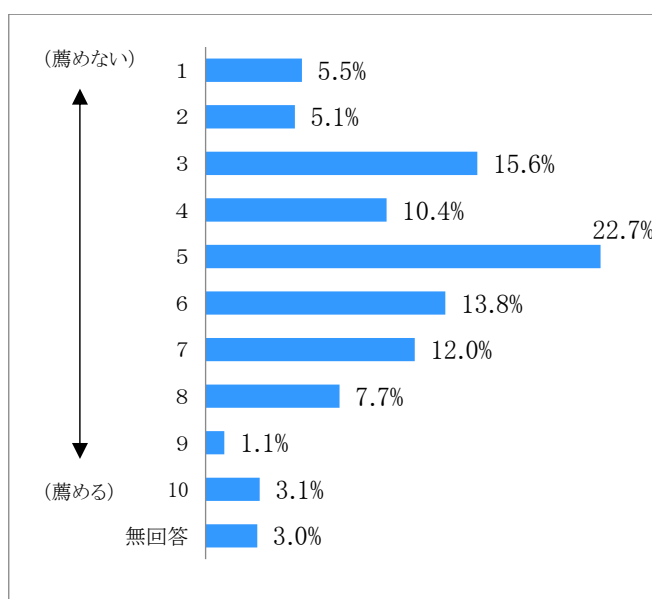
シティブランディングについて

(魅力発信課)

問9 あなたは桐生市に対する考えを聞かれたときに、次の項目についてどのくらい桐生市を薦めますか。

10段階の評価について、「1～4」を「お薦めしない」、「5・6」を「どちらでもない」、「7～10」を「積極的に薦める」として捉えると、無回答を除く回答者の割合は、「お薦めしない」が37.8%、「どちらでもない」が37.6%、「積極的に薦める」が24.6%となった。なお、無回答を除く回答者の平均値は5.0ポイントとなった。今後は、「お薦めしない」の低減とともに、「積極的に薦める」の増加に努めることが重要であるとする。

		回答数	構成比
①	1	41	5.5%
②	2	38	5.1%
③	3	116	15.6%
④	4	77	10.4%
⑤	5	168	22.7%
⑥	6	102	13.8%
⑦	7	89	12.0%
⑧	8	57	7.7%
⑨	9	8	1.1%
⑩	10	23	3.1%
	無回答	22	3.0%
	計	741	100.0%



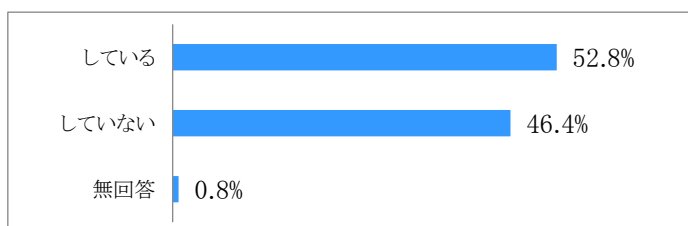
生涯を通じた健康づくりについて

(健康長寿課)

問 10 継続的に運動（散歩やラジオ体操など、意識して体を動かすこと）をしていますか。

「している」が 52.8%、「していない」46.4%という結果となり、継続的に運動している人は半数を超えているものの、前回の 54.4%と比較すると 1.6 ポイント低くなっている。健康寿命の延伸には運動の継続が重要であることから今後も啓発をしていきたい。

		回答数	構成比
①	している	391	52.8%
②	していない	344	46.4%
	無回答	6	0.8%
	計	741	100.0%



地域医療について

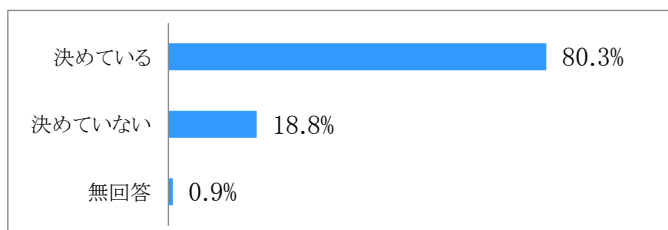
(地域医療感染症対策室)

問 11 かかりつけ医（歯科医を含む）を決めていますか。

「決めている」が 80.3%、「決めていない」が 18.8%という結果になり、「決めている」と回答した方の割合が前回よりも 1.2 ポイント減少しているものの、多くの市民がかかりつけ医（歯科医を含む）を決めているという結果となった。

健康寿命の延伸を推進するうえで、普段から自身の体について気軽に相談できる医療機関を決めておくことは重要なことであるため、今後もかかりつけ医（歯科医含む）を持つことの必要性を啓発していく。

		回答数	構成比
①	決めている	595	80.3%
②	決めていない	139	18.8%
	無回答	7	0.9%
	計	741	100.0%



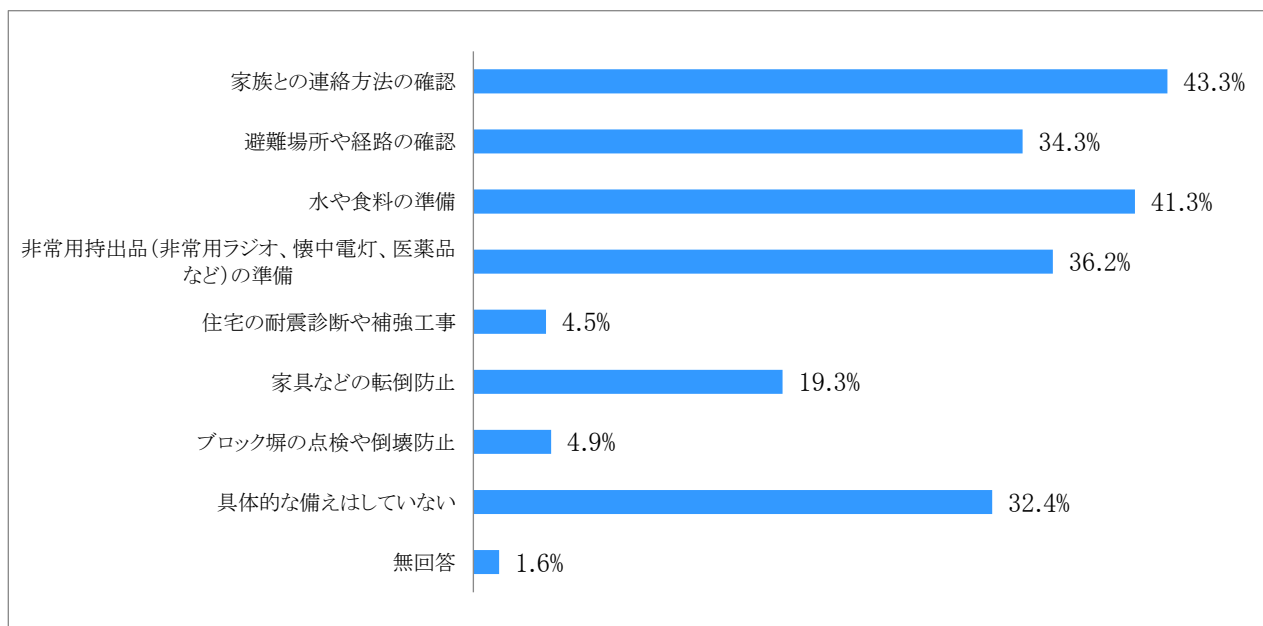
問 12 日頃から、どのような備えをしていますか。(複数回答可)

割合の高かった回答は「家族との連絡方法の確認」(43.3%)や「水や食料の準備」(41.3%)で、割合の低かった回答は「住宅の耐震診断や補強工事」(4.5%)や「ブロック塀の点検や倒壊防止」(4.9%)であった。また、「具体的な備えはしていない」の回答率は32.4%に上った。

自力で行うことができる確認や準備は、専門業者を必要とするものに比べて回答率が高い傾向にある。今後も更なる防災知識の普及を図るため、様々な機会を捉えて防災教育などの啓発を続け、各家庭における防災意識の高揚に努めていく必要がある。

		回答数	回答率
①	家族との連絡方法の確認	321	43.3%
②	避難場所や経路の確認	254	34.3%
③	水や食料の準備	306	41.3%
④	非常用持出品(非常用ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の準備	268	36.2%
⑤	住宅の耐震診断や補強工事	79	4.5%
⑥	家具などの転倒防止	143	19.3%
⑦	ブロック塀の点検や倒壊防止	36	4.9%
⑧	具体的な備えはしていない	240	32.4%
⑨	無回答	12	1.6%

※回答率＝回答数÷回答者総数(741人)

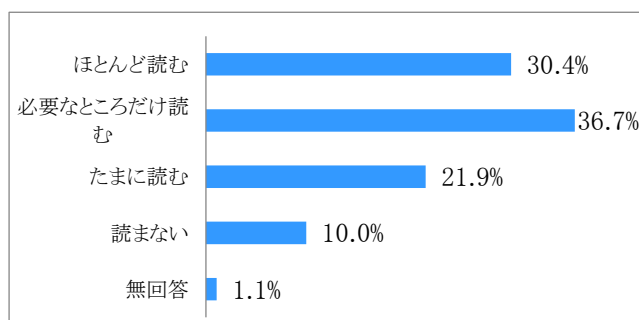


問 13 広報きりゅうを読んでいますか。

広報きりゅうを「ほとんど読む」(30.4%)と「必要なところだけ読む」(36.7%)、「たまに読む」(21.9%)を合計すると 88.9%と、多くの人が市政情報を得るための手段として広報きりゅうを活用していることがわかる。

今回の調査から市政情報を得るために広報きりゅうが有効に活用されていると考えられるが、今後も引き続き広報きりゅうの内容の充実を図り、市民のニーズを把握し、「伝える」・「伝わる」情報発信に努めていく必要がある。

		回答数	構成比
①	ほとんど読む	225	30.4%
②	必要なところだけ読む	272	36.7%
③	たまに読む	162	21.9%
④	読まない	74	10.0%
	無回答	8	1.1%
	計	741	100.0%



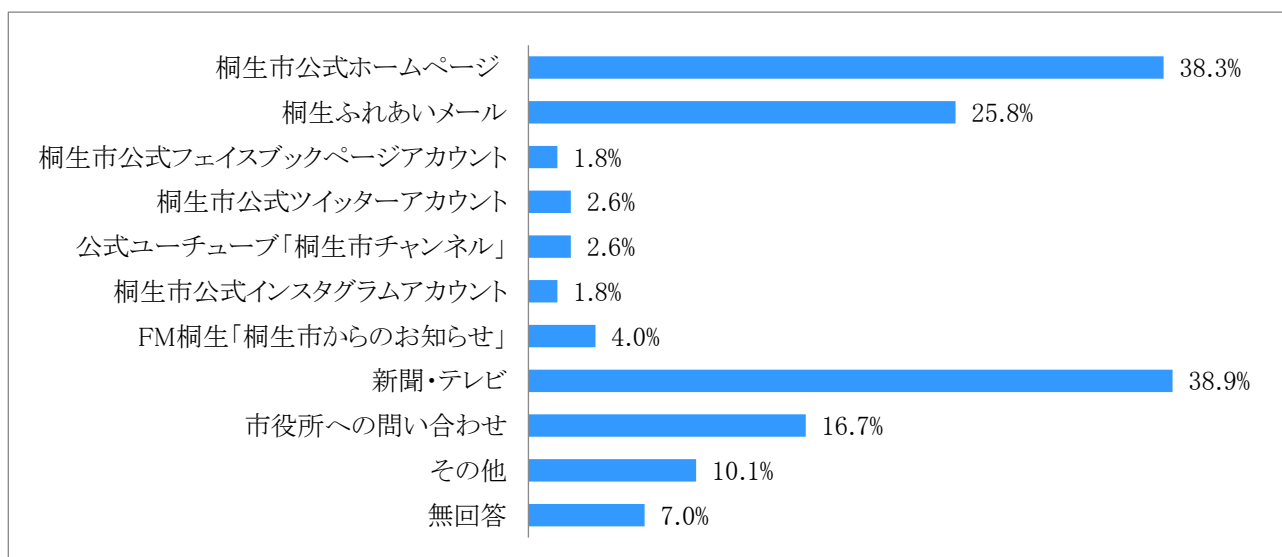
問 14 市からの情報を得る手段として、広報きりゅう以外に何を利用していますか。

桐生市公式ホームページ、新聞・テレビが情報収集の主要な手段であることが分かった。一方で、若者の情報源であるソーシャルメディアの利用は全体的に低い水準となった。

若年層を含むより幅広い世代への情報が行き届くよう、ソーシャルメディアをはじめとした各媒体の活用に向けていくとともに、市民のニーズに応じた「わかりやすく、伝わる」情報発信に取り組んでいく。

		回答数	回答率
①	桐生市公式ホームページ	284	38.3%
②	桐生ふれあいメール	191	25.8%
③	桐生市公式フェイスブックページアカウント	13	1.8%
④	桐生市公式ツイッターアカウント	19	2.6%
⑤	公式ユーチューブ「桐生市チャンネル」	19	2.6%
⑥	桐生市公式インスタグラムアカウント	13	1.8%
⑦	FM 桐生「桐生市からのお知らせ」	30	4.0%
⑧	新聞・テレビ	288	38.9%
⑨	市役所への問い合わせ	124	16.7%
⑩	その他	75	10.1%
	無回答	52	7.0%

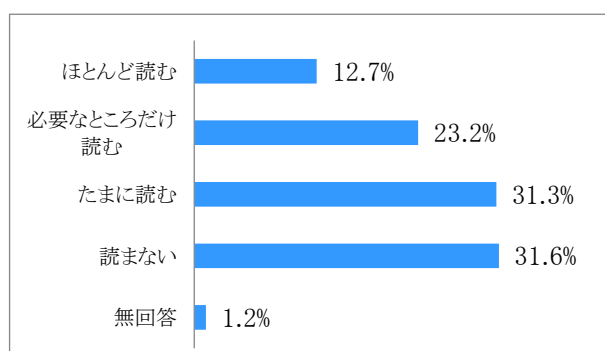
※回答率＝回答数÷回答者総数（741 人）



問 15 きりゅう市議会だよりを読んでいますか。

①～③を合わせた多くの市民が読む姿勢を示しているが、①の「ほとんど読む」が少ないのは、関心の低さや定期購読的な習慣が根づいていない可能性がある。また、一方で②、③の割合も高いことから今後、関心ごとをすぐに見つけられる誌面デザインや特集を企画し、④の「読まない」層を減らしていくことにもつながっていききたい。

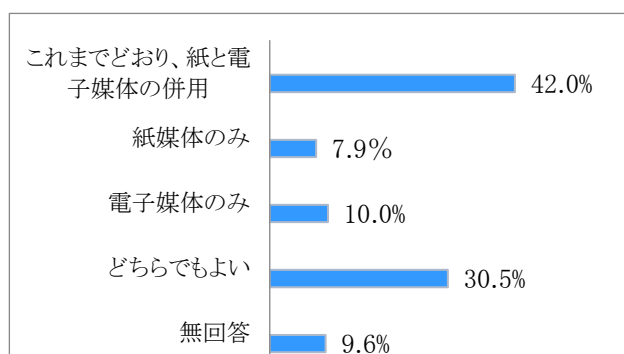
		回答数	構成比
①	ほとんど読む	94	12.7%
②	必要なところだけ読む	172	23.2%
③	たまに読む	232	31.3%
④	読まない	234	31.6%
	無回答	9	1.2%
	計	741	100.0%



問 16 現在、桐生市議会だよりは、紙媒体による毎戸配布のほか、市ホームページによる電子媒体で閲覧できるようになっておりますが、今後の議会だよりの発行方法についてどう思いますか。

今回の結果は、4割の市民が「現状維持」という安心感を重視しており、配布形態の変更には慎重さが必要であると考えられる。一方で、多くの方が電子媒体に肯定的であり、将来的な電子移行を見据えて電子版の利便性を研究しておくことで、10年後、20年後の移行に備える価値があることも考えられる。

		回答数	構成比
①	これまでどおり、紙と電子媒体の併用	311	42.0%
②	紙媒体のみ	59	7.9%
③	電子媒体のみ	74	10.0%
④	どちらでもよい	226	30.5%
⑤	無回答	71	9.6%
	計	741	100.0%



市内の移動について

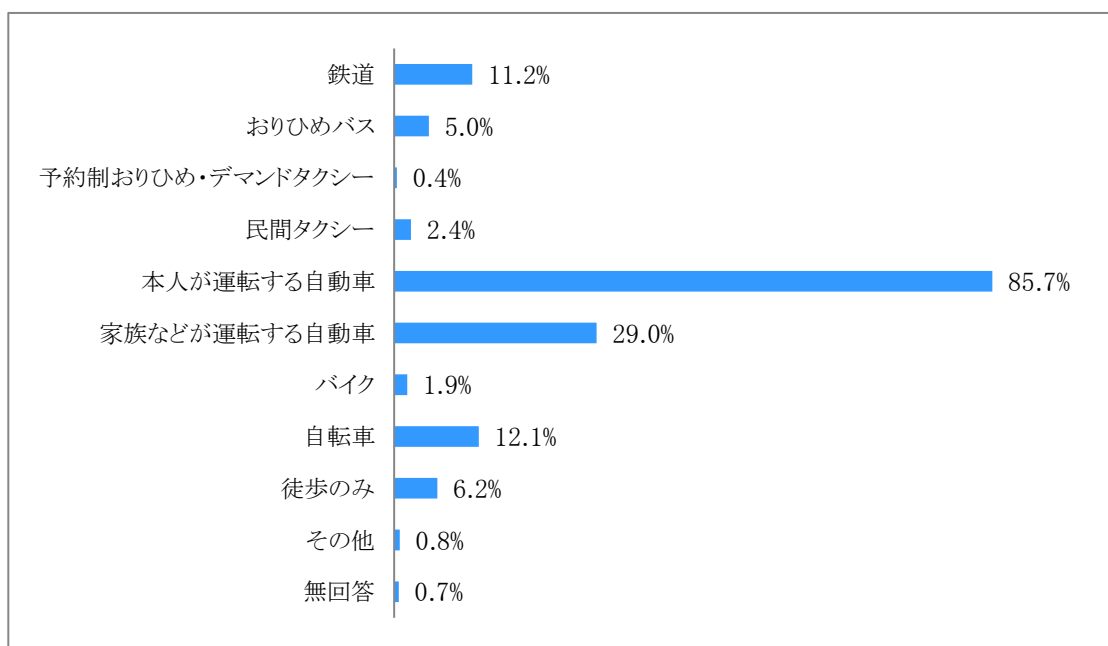
(交通ビジョン推進室)

問 17 日常の移動手段には何を利用していますか。(複数回答可)

「⑤本人が運転する自動車」の利用割合が回答者の 85.7%と最も多く、前回から 9.0%増加している。
 「⑥家族などが運転する自動車」が 2 番目で 29.0%であり、前回から 7.3%減少している。
 他の選択肢の変動率は 3%以内であり、おおむね横ばいであった。

		回答数	回答率
①	鉄道	83	11.2%
②	おりひめバス	37	5.0%
③	予約制おりひめ・デマンドタクシー	3	0.4%
④	民間タクシー	18	2.4%
⑤	本人が運転する自動車	635	85.7%
⑥	家族などが運転する自動車	215	29.0%
⑦	バイク	14	1.9%
⑧	自転車	90	12.1%
⑨	徒歩のみ	46	6.2%
⑩	その他	6	0.8%
	無回答	5	0.7%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741 人）



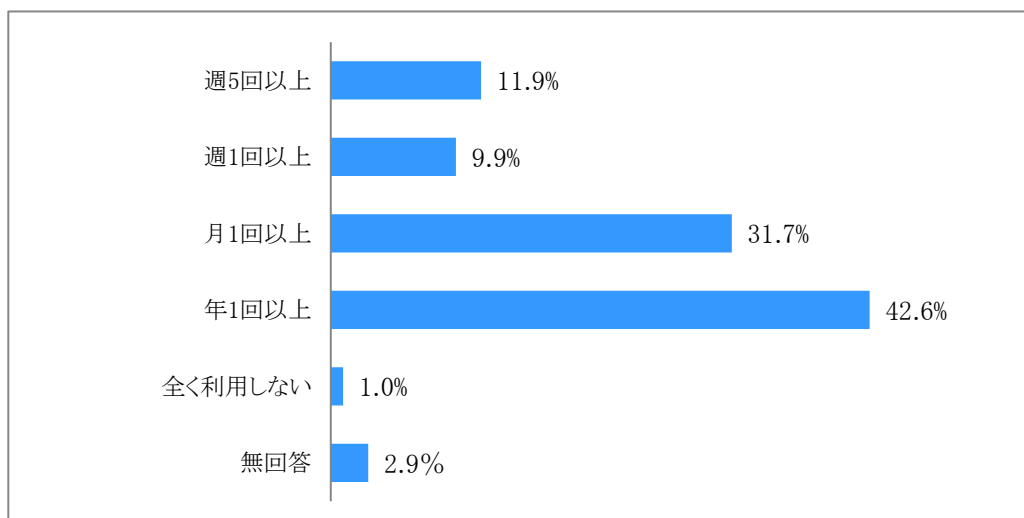
問 18 (問 17 で①、②、③に✓をつけた人)どのくらいの頻度で鉄道、バス等を利用していますか。(複数回答可)

①と②の合計は 21.8%であるのに対し、③と④の合計は 74.5%である。

公共交通を日常の利用手段としていると回答した人の中でも、ほとんどの人は機会があるときにのみ公共交通を利用するという状況にとどまっている。

		回答数	構成比
①	週 5 回以上	12	11.9%
②	週 1 回以上	10	9.9%
③	月 1 回以上	32	31.7%
④	年 1 回以上	43	42.6%
⑤	全く利用しない	1	1.0%
⑥	無回答	3	2.9%
	計	101	100.0%

※回答率＝回答数÷回答者総数（101 人）



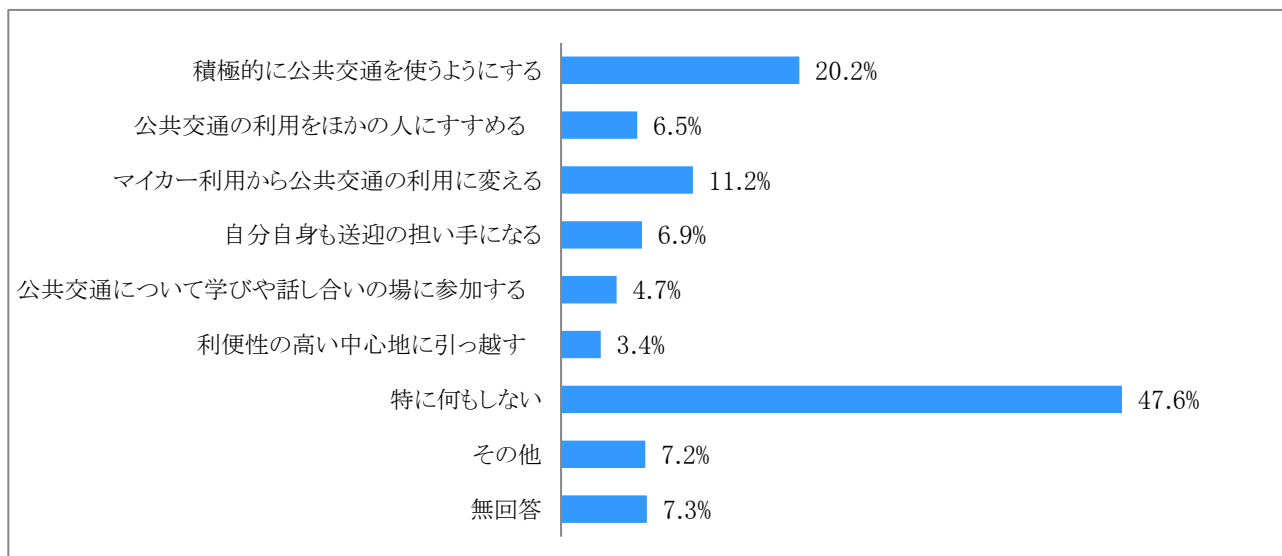
問 19 公共交通の維持・発展に向け、あなたはどんなことができますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【新規】

「桐生市地域公共交通計画」策定時のアンケート結果と比較し、「⑦特に何もしない」の割合が 24.2% 増加しているのに対し、他の選択肢はおおむね減少している。

前者は公共交通に特化したアンケートであったため、回答者の考える意識にやや偏りがあったものと考えられる。

		回答数	回答率
①	積極的に公共交通を使うようにする	150	20.2%
②	公共交通の利用をほかの人にすすめる	48	6.5%
③	マイカー利用から公共交通の利用に変える	83	11.2%
④	自分自身も送迎の担い手になる	51	6.9%
⑤	公共交通について学びや話し合いの場に参加する	35	4.7%
⑥	利便性の高い中心地に引っ越す	25	3.4%
⑦	特に何もしない	353	47.6%
⑧	その他	53	7.2%
	無回答	54	7.3%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741 人）



問 20 SDGs を知っていますか。

SDGs という言葉の認知率は 79.1%で、前回（第 25 回）のアンケート結果（76.2%）と比較して 2.9 ポイント増加し、認知率のわずかな増加がみられた。

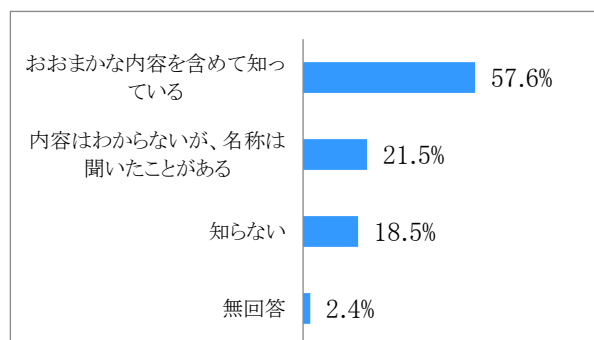
そのうち「内容を含めて知っている」と回答した割合も 57.6%と前回調査（53.4%）を 4.2 ポイント上回った。

一方、SDGs を知らないと回答した割合については前回調査（18.5%）と変化がなかった。本結果から、SDGs を知っていた層が内容についての理解を深めたことと、一定数の SDGs を知らない層が存在していることが確認できる。

内容についての理解の深化については、本市としても、SDGs に関する情報発信のほか、市民に SDGs を楽しく理解してもらうためのイベントやワークショップの開催、市職員が分かりやすく SDGs を解説する出前講座など、SDGs の普及促進に向けた各種の取組を継続的にやっているところであり、その成果が今回の数字に表れたものと考えられる。また、一定数存在する知らない層を減らすために、これまでとは違った周知方法を検討していくことが重要だと考える。

SDGs の目標達成には、市民一人ひとりが SDGs を意識して行動することが重要であることから、認知率を高めるため周知を続けていくとともに、SDGs の内容の認知率を増加させるため積極的な啓発等に努めていくことが必要であると考えられる。

		回答	構成比
①	おおまかな内容を含めて知っている	427	57.6%
②	内容はわからないが、名称は聞いたことがある	159	21.5%
③	知らない	137	18.5%
	無回答	18	2.4%
	計	741	100.0%



問 21 次の①から⑧までの行動はSDGsの推進に役立つものとされています。あなたが日頃心掛けている行動は何ですか。（複数回答可）

特に当てはまる行動はない、無回答を選択した人は合計して 4.6%で、SDGs を知っているかどうかに関わらず、既に SDGs の達成に資する何らかの行動の一つ以上行っている人の割合は 95.4%であり、前回（第 25 回）のアンケート結果（92.4%）に比べてわずかに増加している。

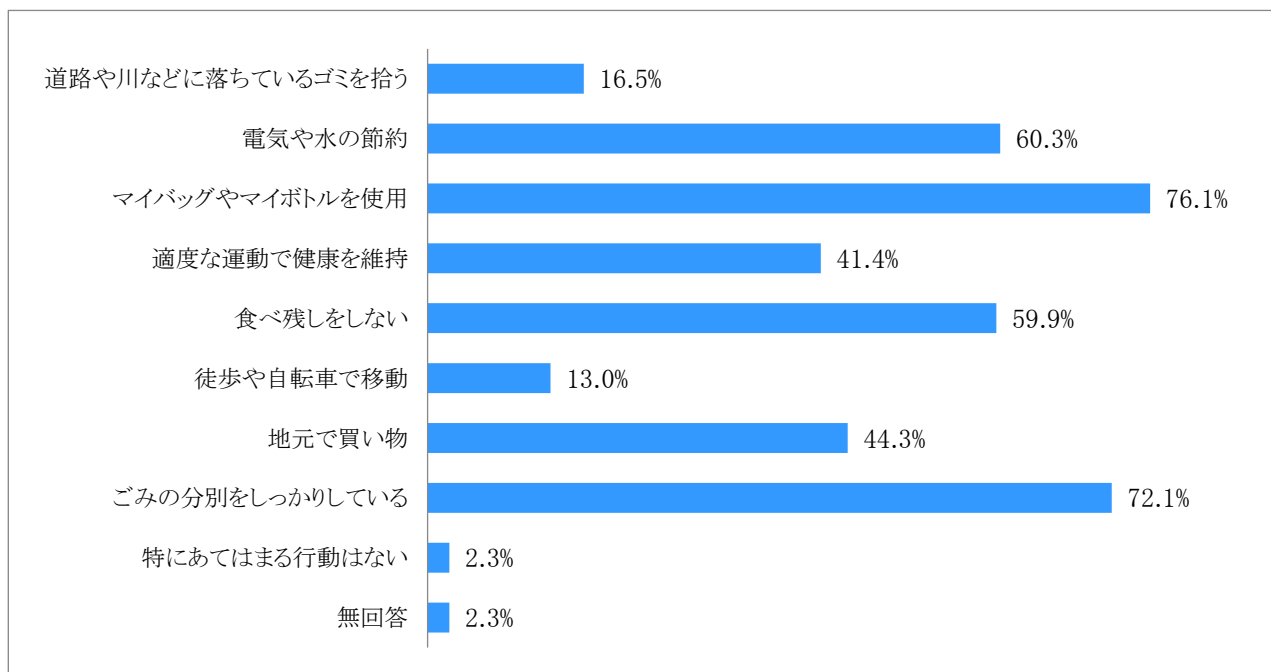
また、前回の結果と比較すると全体的に微増ではあるものの、各項目における回答数の傾向は全く変わっていない。すなわち、マイバッグ利用やごみの分別、食べ残しゼロといった、日常生活の中で比較的簡単にできる行動は半数以上の人が既に行っている一方で、地元での買い物や運動といった、意識をやや

高く持たなければ行動が喚起されないものについては半数を割り、徒歩・自転車での移動やごみを拾うといった、意識を特に高く持たなければ喚起されない行動をとる人の数は極端に少ない。

以上のことと問 20 の結果を合わせて見ると、前回のアンケート調査からの2年間で、SDGsの認知率は増加しているものの、SDGs達成のために行動変容を起こすまでには至っていない人がほとんどであることが分かる。SDGsの観点から見ると、これらの行動は、意識の高い一部の人だけが行うのではなく、市民一人ひとりが実行することが重要と言える。一人ひとりのSDGsへの理解度を高め、SDGsを意識した行動を実行できる市民の割合も高めていくために、今後、SDGsを自分事として考えられるような、より一層の啓発等に努めることが必要であると考えられる。

		回答数	回答率
①	道路や川などに落ちているゴミを拾う	122	16.5%
②	電気や水の節約	447	60.3%
③	マイバッグやマイボトルを使用	564	76.1%
④	適度な運動で健康を維持	307	41.4%
⑤	食べ残しをしない	444	59.9%
⑥	徒歩や自転車で移動	96	13.0%
⑦	地元で買い物	328	44.3%
⑧	ごみの分別をしっかりとっている	534	72.1%
⑨	特にあてはまる行動はない	17	2.3%
	無回答	17	2.3%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741人）



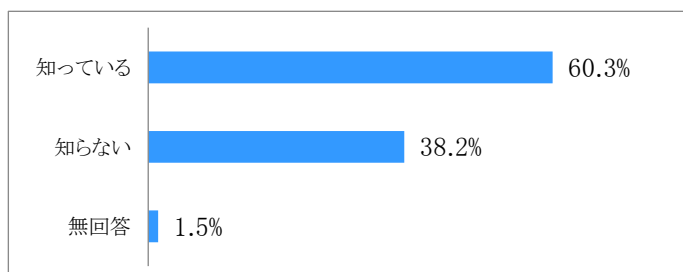
問 22 「日本遺産（「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー）」が、古くから盛んであった群馬県の絹産業（養蚕・製糸・織物）と女性の活躍を伝えるストーリーであることを知っていますか。

日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の市民認知度について、前回、前々回調査では「知らない」が半数以上を占めていたが、今回の調査では「知っている」が60%以上となり、「知らない」を大幅に上回る結果となった。

日本遺産活用室の新設以降、周知用チラシ等の作成、「日本遺産の日」展等の日本遺産PRイベントの継続的な開催、桐生市物産まつり等での周知を始め、市民認知度の向上のための取組みを継続的かつ重点的に実施した結果、これらが着実に成果に結びついてきている。

今後も、各媒体を活用した情報発信を始め、日本遺産に関する取組みを継続的かつ加速度的に推進していくことで、市民認知度の向上を図っていく必要がある。

		回答数	構成比
①	知っている	447	60.3%
②	知らない	283	38.2%
	無回答	11	1.5%
	計	741	100.0%



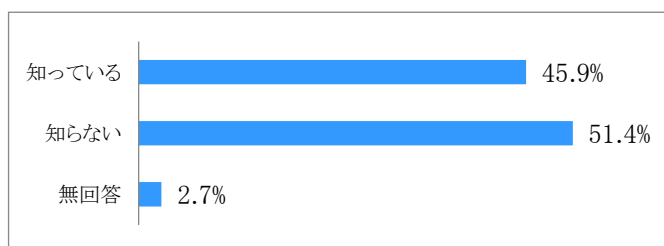
問 23 桐生市が日本の近代化を支えた「日本遺産（「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー）」の中で、その織物の歴史と文化を伝える役割を担っていることを知っていますか。

今回の調査においては、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」のストーリーにおける桐生市の役割に関する設問であったが、「知っている」(45.9%)を「知らない」(54.4%)が少し上回る結果となった。日本遺産の市民認知度は向上しているものの、ストーリーの内容や桐生市の位置付け（役割）といったことまでは十分浸透していない状況である。

桐生市は古くから「織物」が有名なまちであるが、現時点においては、「織物」と「日本遺産」が結びついておらず、この点をいかに周知していくかが課題である。

今後は、この点を踏まえながら、単に「桐生市に日本遺産がある」ということを認知していただくだけでなく、ストーリーの中で「桐生市が織物の歴史と文化等を伝える役割である」ことが認知されるような周知を図っていく必要がある。

		回答数	構成比
①	知っている	340	45.9%
②	知らない	381	51.4%
	無回答	20	2.7%
	計	741	100.0%



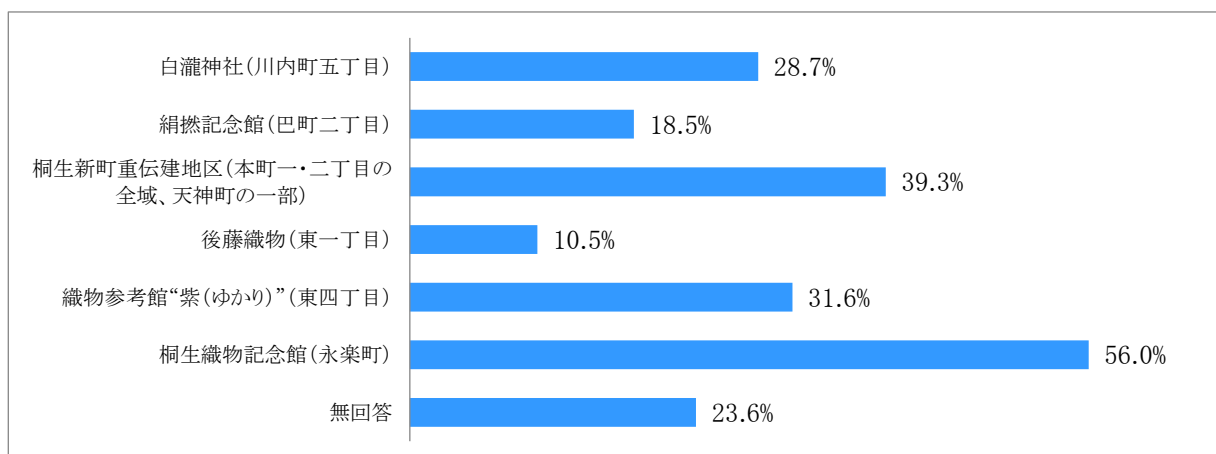
問 24 「日本遺産（「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー）」を構成する文化財 13 件のうち、桐生市内にある下記 6 件の構成文化財を訪れたことがありますか。訪れたことがあるものすべてに○をつけてください。

日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の市内構成文化財（6 件）のうち、後藤織物を除いた構成文化財については、前回調査に比べ、実際に訪れた割合は増加している。令和 3 年度以降、各構成文化財を巡るスタンプラリーを実施するなど、実際に訪れていただくためのイベントの開催や市内外イベントでの周知が要因である。

今後も引き続き、市内外のイベントで周知を図るとともに、実際に各構成文化財を訪れていただけるようなイベント等の開催、令和 6 年 5 月に新たに創設した「桐生市日本遺産連絡協議会」を始めとした構成文化財間での連携強化といった行政主体の取組みに加え、旅行商品造成に向けた旅行業者等への働きかけ（商談会への参加等）を図っていく必要がある。

		回答数	回答率
①	白瀧神社（川内町五丁目）	213	28.7%
②	絹撚記念館（巴町二丁目）	137	18.5%
③	桐生新町重伝建地区（本町一・二丁目の全域、天神町の一部）	291	39.3%
④	後藤織物（東一丁目）	78	10.5%
⑤	織物参考館“紫（ゆかり）”（東四丁目）	234	31.6%
⑥	桐生織物記念館（永楽町）	415	56.0%
	無回答	175	23.6%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741 人）



インターネットの利用状況について

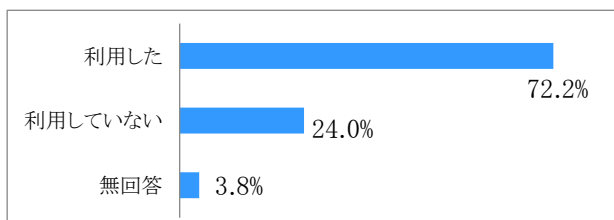
(DX推進室)

問 25 あなたは、過去 1 年間に、インターネット（電子メールやメッセージの送受信、情報の検索、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の利用、ホームページの閲覧、オンラインショッピングなど）を利用したことがありますか。

前回のアンケートと比較して、過去 1 年間にインターネットを「利用した」が 65.9%から 72.2%へ増加し、「利用していない」が 30.2%から 24.0%に減少している結果を見ると、高齢化率の高い桐生市においても、確実にデジタル技術を活用している人が増えていることが分かる。

行政手続のオンライン化及び地域社会のデジタル化を進めるうえで、デジタル技術の利用促進及び利用しやすい環境整備を進めていく必要がある。

		回答数	構成比
①	利用した	535	72.2%
②	利用していない	178	24.0%
	無回答	28	3.8%
	計	741	100.0%

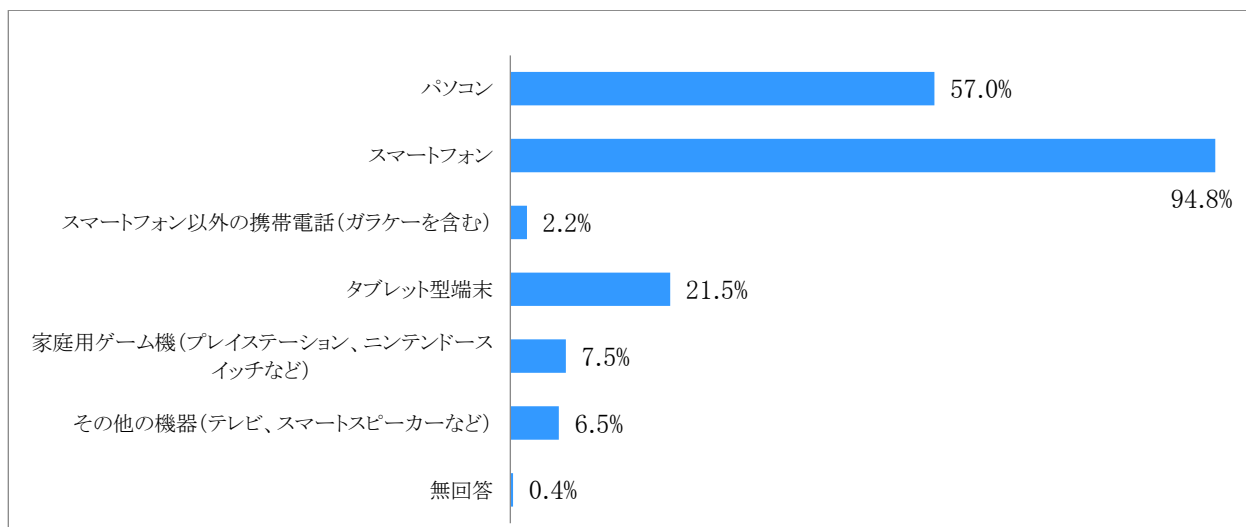


問 26 問 25（インターネットの利用）で「①利用した」に○をつけた人にお聞きします。保有しているか否かに関わらず、あなたがインターネットを利用した機器は何ですか。当てはまるもの最大3つまでに○をつけてください。（複数回答可）

前回アンケートと同様に、「スマートフォン」(94.8%)の利用が最も多く、次いで「パソコン」(57.0%)、「タブレット型端末」(21.5%)と続いており、スマートフォンがインターネットを利用するにあたり、依然として最も身近な機器だということが分かる。

		回答数	回答率
①	パソコン	305	57.0%
②	スマートフォン	507	94.8%
③	スマートフォン以外の携帯電話（ガラケーを含む）	12	2.2%
④	タブレット型端末	115	21.5%
⑤	家庭用ゲーム機（プレイステーション、ニンテンドースイッチなど）	40	7.5%
⑥	その他の機器（テレビ、スマートスピーカーなど）	35	6.5%
	無回答	2	0.4%

※回答率＝回答数÷問 25 で「①利用した」に○をつけた数（535 人）



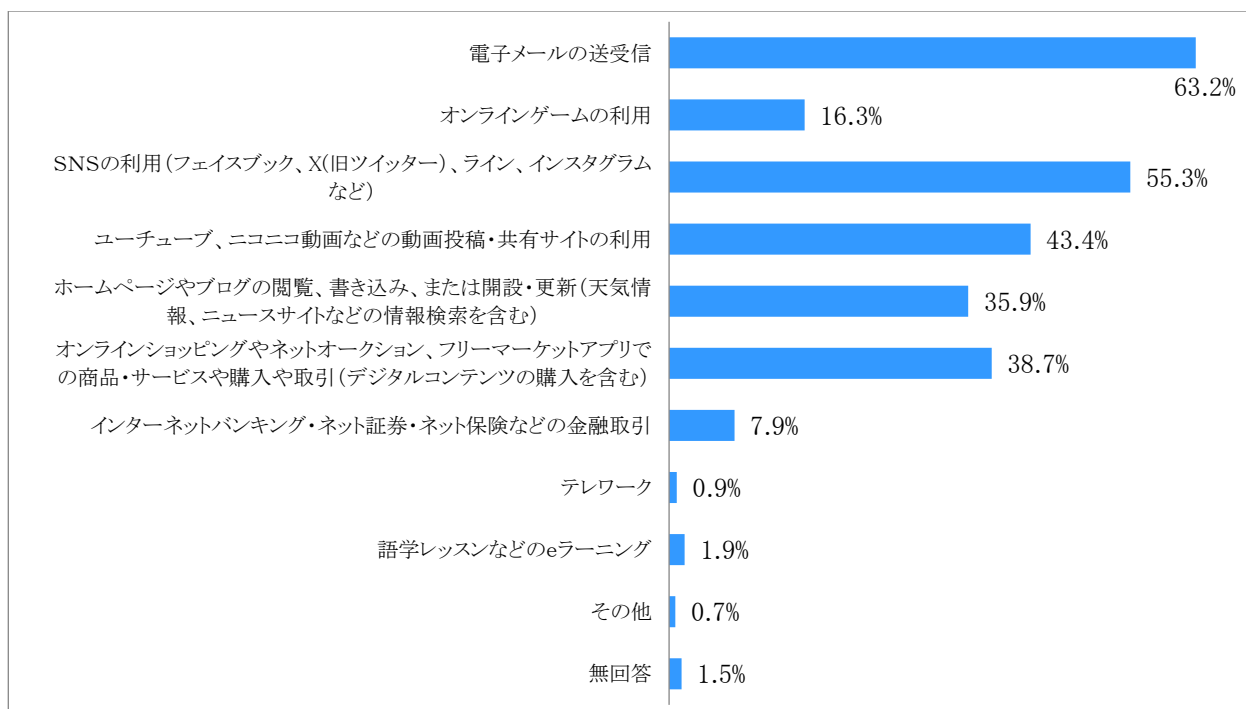
問 27 問 25（インターネットの利用）で「①利用した」に○をつけた人にお聞きします。どのような目的でインターネットを利用しましたか。当てはまるもの最大3つまでに○をつけてください。

回答を頂いた 535 人のうち、「電子メールの送受信」（63.2%）、「フェイスブック、X（旧ツイッター）、ライン、インスタグラムなどの SNS の利用」（55.3%）が上位になっており、その後に動画投稿・共有サイトやオンラインショッピング、ホームページ等の閲覧と続いている。

上記回答の割合から、インターネットを利用しようとする人の目的は、おおよそ 5 つに分けられることが分かる。

		回答数	回答率
①	電子メールの送受信	338	63.2%
②	オンラインゲームの利用	87	16.3%
③	SNS の利用（フェイスブック、X(旧ツイッター)、ライン、インスタグラムなど）	296	55.3%
④	ユーチューブ、ニコニコ動画などの動画投稿・共有サイトの利用	232	43.4%
⑤	ホームページやブログの閲覧、書き込み、または開設・更新（天気情報、ニュースサイトなどの情報検索を含む）	192	35.9%
⑥	オンラインショッピングやネットオークション、フリーマーケットアプリでの商品・サービスや購入や取引（デジタルコンテンツの購入を含む）	207	38.7%
⑦	インターネットバンキング・ネット証券・ネット保険などの金融取引	42	7.9%
⑧	テレワーク	5	0.9%
⑨	語学レッスンなどの e ラーニング	10	1.9%
⑩	その他	4	0.7%
⑪	無回答	8	1.5%

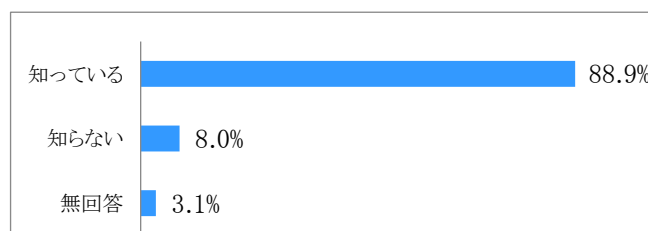
※回答率＝回答数÷問 25 で「①利用した」に○をつけた数（535 人）



問 28 桐ペイ（桐生市電子地域通貨）を知っていますか。

令和4年度の導入から約3年が経過しようとしているなかで、桐ペイの認知度は約89%であり、かなり浸透してきていることが分かった。

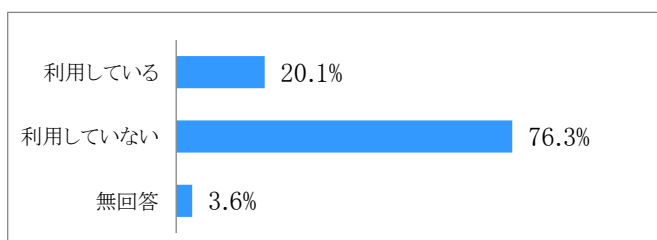
		回答数	構成比
①	知っている	659	88.9%
②	知らない	59	8.0%
	無回答	23	3.1%
	計	741	100.0%



問 29 桐ペイ以外の他自治体の電子地域通貨を利用していますか。

比較的多くの方が、電子地域通貨の特性を理解し、必要に応じて他自治体の電子地域通貨を利用するなど使い分けをしていることが分かった。

		回答数	構成比
①	利用している	149	20.1%
②	利用していない	565	76.3%
	無回答	27	3.6%
	計	741	100.0%

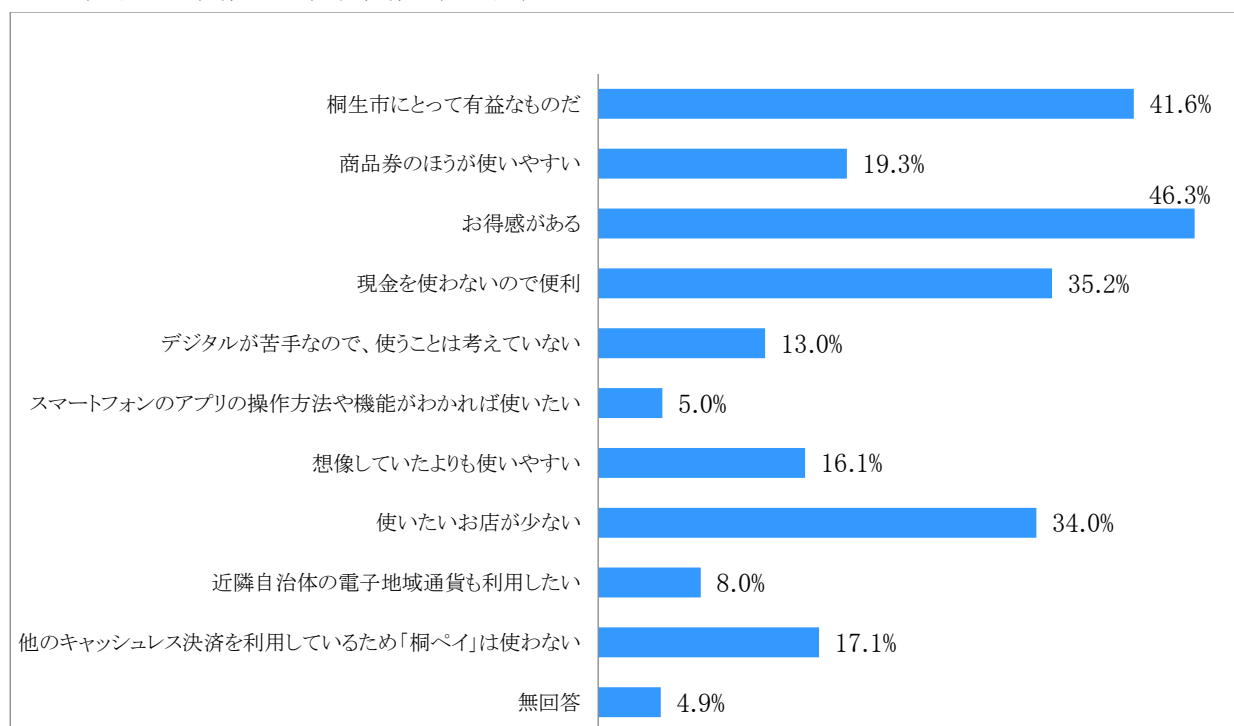


問 30 桐ペイに対してあなたが持つイメージで、当てはまるもの3つに○をつけてください。

「桐生市にとって有益なもの」や「お得感がある」と回答された方が、前回の調査時より10%程度増加しており、デジタル化の推進と合わせて市にとって価値のあるものであると認識されていると感じる。また、使いたいお店が少ないの回答数もかなり高い割合なので、引き続き加盟店の増加に尽力する必要がある。様々な電子決済があるなかで、他の電子決済や電子通貨との差別化を図りつつ利便性の向上に努める必要がある。

		回答数	回答率
①	桐生市にとって有益なものだ	308	41.6%
②	商品券のほうが使いやすい	143	19.3%
③	お得感がある	343	46.3%
④	現金を使わないので便利	261	35.2%
⑤	デジタルが苦手なので、使うことは考えていない	96	13.0%
⑥	スマートフォンのアプリの操作方法や機能がわかれば使いたい	37	5.0%
⑦	想像していたよりも使いやすい	119	16.1%
⑧	使いたいお店が少ない	252	34.0%
⑨	近隣自治体の電子地域通貨も利用したい	59	8.0%
⑩	他のキャッシュレス決済を利用しているため「桐ペイ」は使わない	127	17.1%
	無回答	36	4.9%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741人）

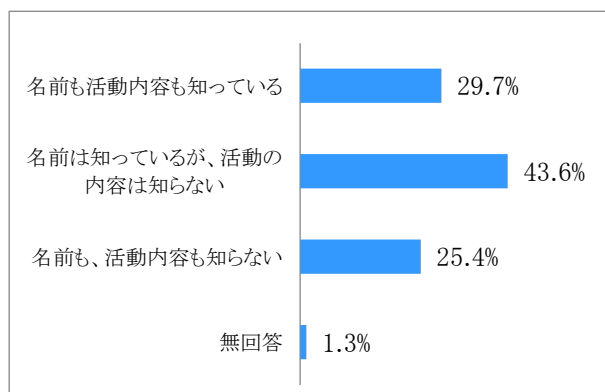


問 31 桐生市には、不審な電話やメール、悪質な訪問販売などの消費者トラブルに対応する「消費生活センター」がありますが、知っていますか。

「名前は知っているが活動の内容は知らない」が 43.6%で半数弱あった半面、「名前も活動も知っている」が 29.7%、「名前も活動の内容も知らない」が 25.4%と、ほぼ同数であった。消費生活センターの認知だけを考えると 3/4 程度が知っているが、どのようなことをやっているか、その活動内容が知られていないと考えられる。

平成 8 年に設置され、市役所新庁舎の建替えとともに令和 7 年 1 月に市役所内に移転した。消費生活センターをより身近な存在として、周知啓発などを通じてその活動内容を含めて周知に努めたい。

		回答数	構成比
①	名前も活動内容も知っている	220	29.7%
②	名前は知っているが、活動の内容は知らない	323	43.6%
③	名前も、活動内容も知らない	188	25.4%
	無回答	10	1.3%
	計	741	100.0%



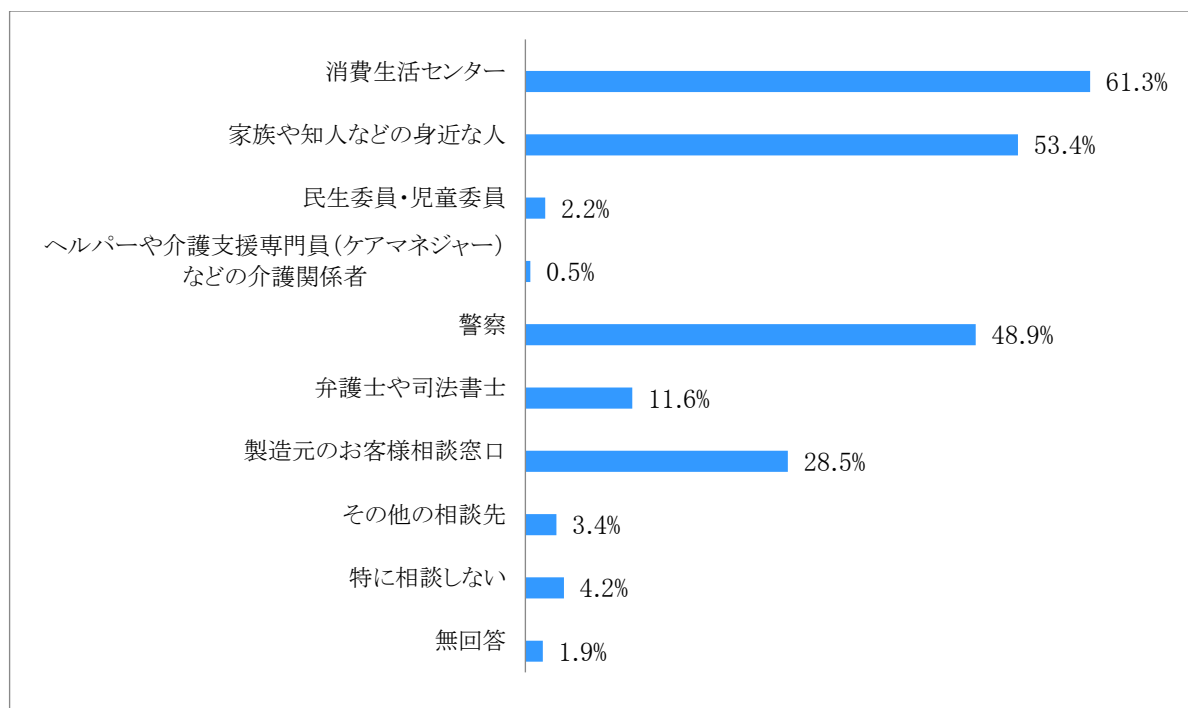
問 32 契約や通信販売でのトラブルなど、消費者トラブルにあったときに、どこに相談しようと思いますか。当てはまるものに○をつけてください。（複数回答可）

項目の「民生委員・児童委員」や「ヘルパーなどの介護関係者」が想定より少ない結果となった高齢者を消費者トラブルから守るためには、周囲の人が日頃から注意を払い、変化に気づくことが重要。

地域包括支援センターや民生委員、介護事業者など様々な関係機関と連携して、地域で見守る多様な担い手のみなさんの気付きを消費生活センターにつなぐことができるよう取組が必要と思われる。

		回答数	回答率
①	消費生活センター	454	61.3%
②	家族や知人などの身近な人	396	53.4%
③	民生委員・児童委員	16	2.2%
④	ヘルパーや介護支援専門員（ケアマネジャー）などの介護関係者	4	0.5%
⑤	警察	362	48.9%
⑥	弁護士や司法書士	86	11.6%
⑦	製造元のお客さま相談窓口	211	28.5%
⑧	その他の相談先	25	3.4%
⑨	特に相談しない	31	4.2%
	無回答	14	1.9%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741 人）

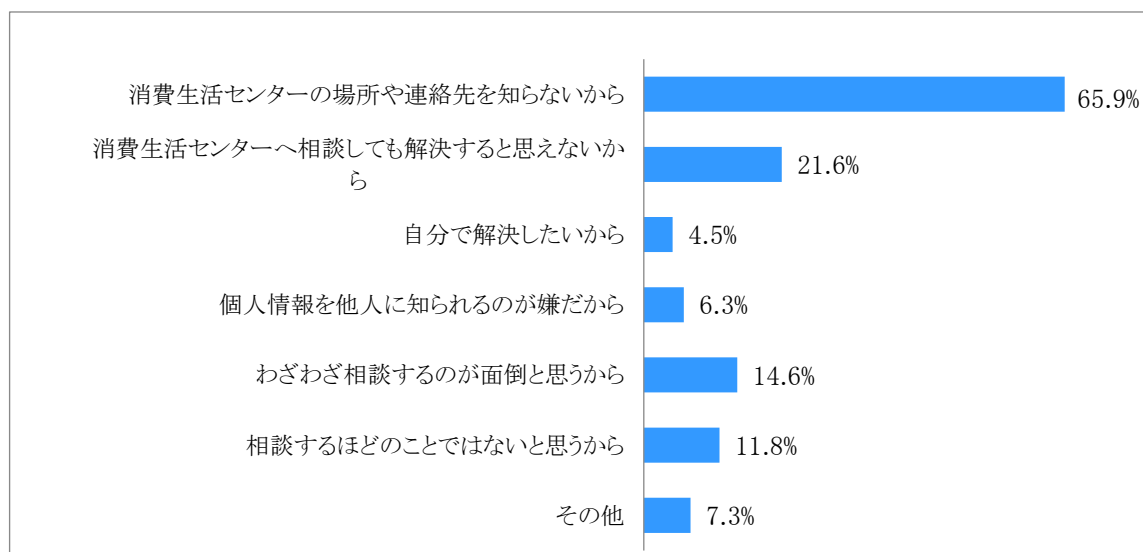


問 33 問 32 で、①を選ばなかった方にお聞きます。消費者トラブルがあったとき、消費生活センターへ相談しない考える理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

消費生活センターへ相談しないことの理由として最も多いのが「場所や連絡先を知らない」ということから、連絡先の電話番号の更なる周知が必要。市役所内に移転したことで、より身近な相談先としてその存在感をアピールしていきたい。

		回答数	回答率
①	消費生活センターの場所や連絡先を知らないから	189	65.9%
②	消費生活センターへ相談しても解決すると思えないから	62	21.6%
③	自分で解決したいから	13	4.5%
④	個人情報情報を他人に知られるのが嫌だから	18	6.3%
⑤	わざわざ相談するのが面倒と思うから	42	14.6%
⑥	相談するほどのことではないと思うから	34	11.8%
⑦	その他	21	7.3%

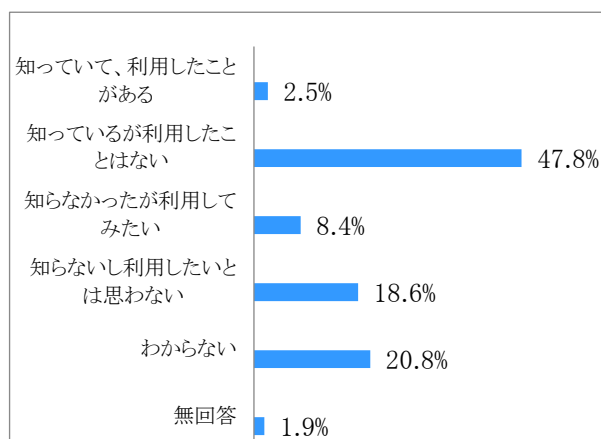
※回答率＝回答数÷問 32 で①と答えなかった人数 287 人（741-454）



問 34 市のホームページ等で物件を紹介する「空き家・空き地バンク事業」を知っていますか。【新規】

「②の結果から、事業の認知度が高いことがわかった。これは、毎年税務課より送付している固定資産税の納税通知書に、事業概要を記したチラシを同封している効果が大きいと考えられる。逆に③～⑤を選択した回答者の多くは、固定資産税の納税者でないことが推察される。

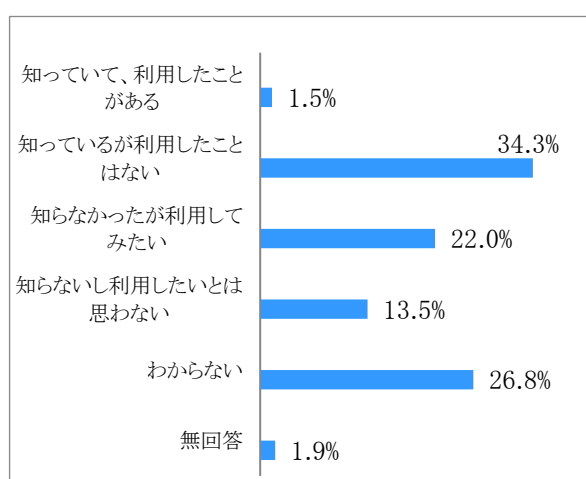
		回答数	構成比
①	知っていて、利用したことがある	19	2.5%
②	知っているが利用したことはない	354	47.8%
③	知らなかったが利用してみたい	62	8.4%
④	知らないし利用したいとは思わない	138	18.6%
⑤	わからない	154	20.8%
	無回答	14	1.9%
	計	741	100.0%



問 35 空き家のリフォームや解体に使える補助金を知っていますか。【新規】

問 36 より、補助金を利用したことがない・利用したいと思わない人の半数以上がそもそも空き家を持っていないことが分かる。逆に、今回のアンケートではじめて補助制度を知った人のうち、利用してみたいと考えた③の回答者数が④の回答者数を上回っていることから、空き家所有者に対する周知が弱いと感じた。

		回答数	構成比
①	知っていて、利用したことがある	11	1.5%
②	知っているが利用したことはない	254	34.3%
③	知らなかったが利用してみたい	163	22.0%
④	知らないし利用したいとは思わない	100	13.5%
⑤	わからない	199	26.8%
	無回答	14	1.9%
	計	741	100.0%

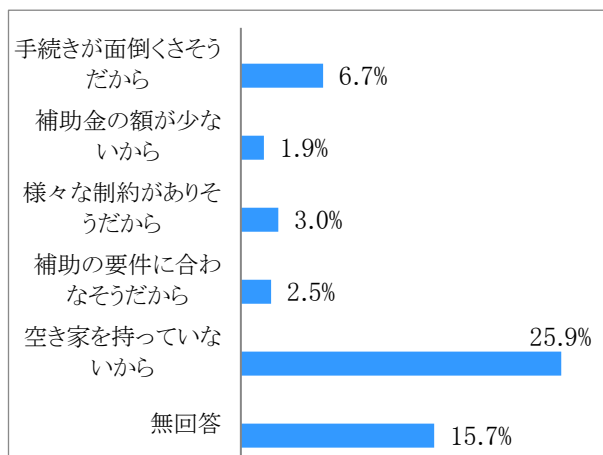


問 36 問 35（補助金）で「②または④」に○をつけた人にお聞きします。補助金を利用したことがない、利用したいとは思わない理由に○をつけてください。【新規】

補助金に対して「面倒な割にメリットが少ない」と考えている人が多くいることがわかった。

また、⑤の回答者が圧倒的に多いことから、自身が空き家を所有することとなってはじめて自分事として捉えてもらえるのではないかと感じた。

		回答数	回答率
①	手続きが面倒くさそうだから	57	6.7%
②	補助金の額が少ないから	16	1.9%
③	様々な制約がありそうだから	26	3.0%
④	補助の要件に合わないそうだから	21	2.5%
⑤	空き家を持っていないから	222	25.9%
	無回答	134	15.7%

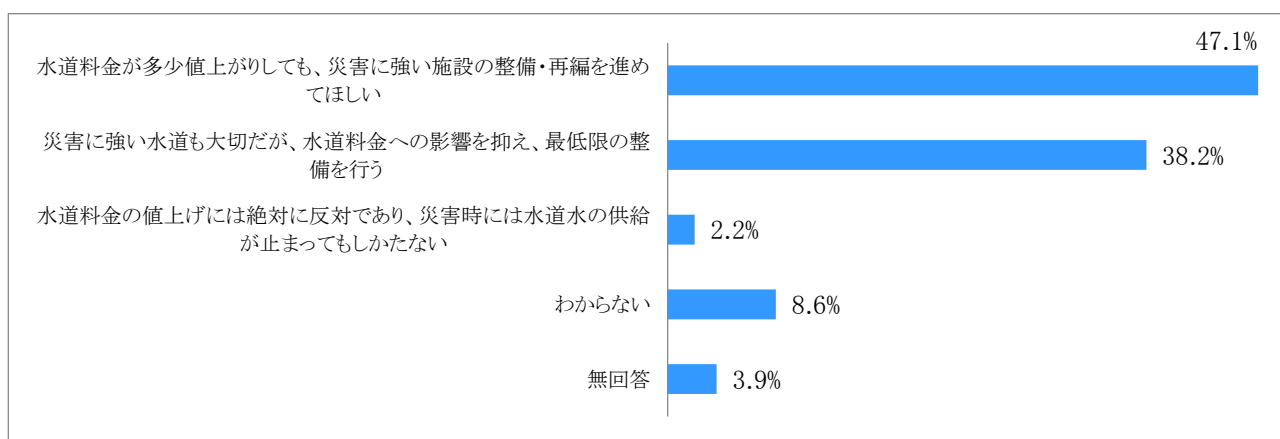


※回答率＝回答数÷回答者総数（354 人）

問 37 災害に強い水道を目標に、老朽施設の更新に取り組んでいます。今後の施設整備への取組について、どう思われますか。【新規】

「水道料金が多少値上がりしても、災害に強い施設の整備・再編を進めてほしい」(47.1%)が最も多く、次いで「災害に強い水道も大切だが、水道料金への影響を抑え、最低限の整備を行う」(38.2%)となり、この2つに回答が集中している結果となっている。この結果から、多くの水道利用者は、老朽化施設の更新の必要性は認識していることが分かる。将来の水需要を踏まえて、適正な水道施設に更新することで、費用削減を図りながら整備・再編を進めていきたい。

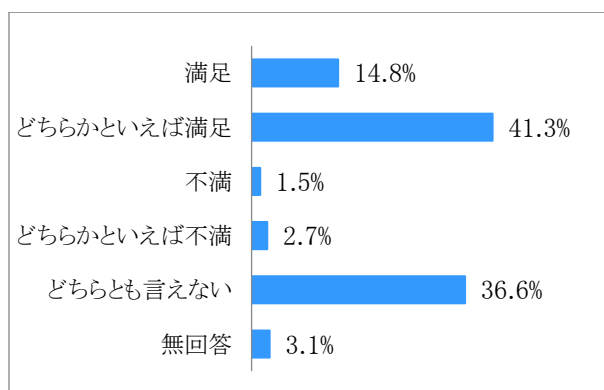
		回	構成比
①	水道料金が多少値上がりしても、災害に強い施設の整備・再編を進めてほしい	349	47.1%
②	災害に強い水道も大切だが、水道料金への影響を抑え、最低限の整備を行う	283	38.2%
③	水道料金の値上げには絶対に反対であり、災害時には水道水の供給が止まってもしかたない	16	2.2%
④	わからない	64	8.6%
	無回答	29	3.9%
	計	741	100.0%



問 38 桐生市水道局が行っている水道事業全般について、どう思われますか。【新規】

「どちらかといえば満足」(41.3%) が最も多く、次いで「どちらとも言えない」(36.6%)、「満足」(14.8%) となっている。桐生市水道局が行っている水道事業全般について満足している割合は、「満足」と「どちらかといえば満足」の構成比を合計すると全体の 56.1% となり、満足している割合が高い結果となっている。また、満足していない割合は、「どちらかといえば不満」(2.7%) と「不満」(1.5%) の構成比を合計し、全体の 4.2% という結果になった。「どちらとも言えない」(36.6%) の割合を考えると、水道について理解が得られるような情報発信等が必要と思われる。

		回答数	構成比
①	満足	110	14.8%
②	どちらかといえば満足	306	41.3%
③	不満	11	1.5%
④	どちらかといえば不満	20	2.7%
⑤	どちらとも言えない	271	36.6%
	無回答	23	3.1%
	計	741	100.0%



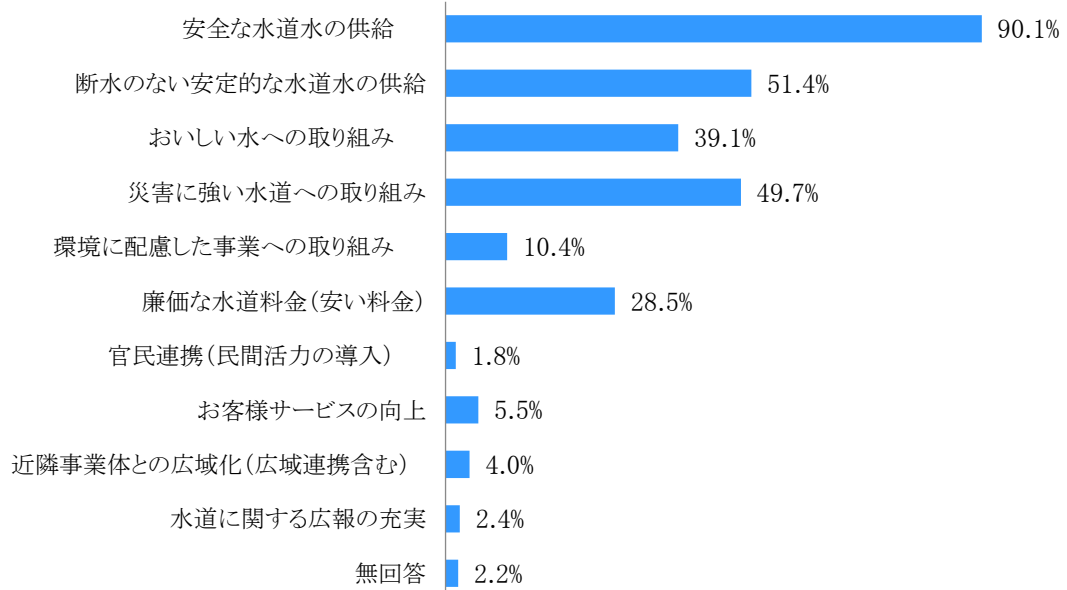
問 39 今後の水道事業へ望まれることについて、当てはまるもの 3 つに○をつけてください。【新規】

「安全な水道水の供給」(90.1%) が最も多く、次いで「断水のない安定的な水道水の供給」(51.4%)、「災害に強い水道への取り組み」(49.7%)、「おいしい水への取り組み」(39.1%) となっている。

多くの水利用者は、水道水の安全性と安定供給に関心があることから、今後も安全安心な水の供給に努めていきたい。

		回答数	回答率
①	安全な水道水の供給	668	90.1%
②	断水のない安定的な水道水の供給	381	51.4%
③	おいしい水への取り組み	290	39.1%
④	災害に強い水道への取り組み	368	49.7%
⑤	環境に配慮した事業への取り組み	77	10.4%
⑥	廉価な水道料金（安い料金）	211	28.5%
⑦	官民連携（民間活力の導入）	13	1.8%
⑧	お客様サービスの向上	41	5.5%
⑨	近隣事業体との広域化（広域連携含む）	30	4.0%
⑩	水道に関する広報の充実	18	2.4%
	無回答	16	2.2%

※回答率＝回答数÷回答者総数（741 人）



第 26 回「市民の声」アンケート自由意見集約結果

1 記載の状況

アンケート回収総数 741 人中、自由意見欄に記載があったのは 295 人で、回答者全体の 39.8%、記載者全体のうち男性が 43.1%、女性が 54.2%、無回答・不明が 2.7%であった。記載のあった割合は、第 25 回の 36.9%（1,012 人中 373 人）と比べ 2.9 ポイン上昇した。

（1）性別記載者数

男性 127 人、女性 160 人、無回答・不明 8 人、合計 295 人。

（2）区別記載者数

1 区から 21 区までの記載者があり、22 区については回答がなく 0 人、最大は 15 区の 47 人、無回答・不明 6 人。

（3）年代別記載者数

すべての年代で記載があり、最少人数は 18 歳・19 歳で 2 人、最大人数は 70 歳代の 74 人、無回答・不明 2 人。

2 項目別内訳

記載内容は、1 人 1 件から、最大 7 件の記載があり、2 件以上について記載されているものについては、それぞれ別分類としてカウントした。また、分類の方法は、概ね事務分掌により分類したが、項目別で数が多いものについては事業名を参考にさらに細かく分類した。なお、賛成・反対の意見は別扱いとせず、1 つの項目とした。

「活気のある（住みよい）まちづくりを希望します…」といったような、具体的な施策や内容などに触れられていないものについては、「まちづくり」にくくって分類した。

「入札妨害・生活保護問題」に関する意見については項目立てして分類し、「庁舎建て替え」及び「生活保護」への意見と別集計とした。また、具体的な施策や内容などに触れずに全体的な市への応援・批判、生活不安等の意見については「その他」に項目立てして分類した。

3 項目別件数

前項の分類に従って作成した「自由意見記入欄項目別分類」で、分類した数は 94 項目・560 件（前回 865 件）。複数の課や事業に関わるものはそれぞれに掲載した。

項目別に数の多かったものは次のとおり（10 件以上）。

まちづくり・活性化	40 件	市政運営	20 件	どこにも属さない意見	11 件
公共交通・交通施策	32 件	観光振興	18 件	人口減少対策	11 件
道路整備・管理	32 件	商店街活性化	13 件	市民対応	11 件
入札妨害・生活保護問題	30 件	庁舎・施設管理	12 件	空き家・空き地対策	11 件
に関する意見		子育て支援	12 件	桐ペイ	10 件
市への批判意見	24 件	企業誘致	12 件	「市民の声」アンケート	10 件
市への応援意見	21 件	動物園・遊園地	12 件	公園整備・管理	10 件

4 項目別件数（部局別）

部局別、項目別件数は次のとおり。

秘書室（1 項目 8 件）

市長の活動・方針 8 件

共創企画部（13 項目 131 件）

まちづくり・活性化	40 件	防災	3 件
公共交通・交通施策	32 件	移住支援	3 件
市政運営	20 件	学校跡地利用	1 件
人口減少対策	11 件	公共施設管理	1 件
情報発信	7 件	広報きりゅう・HP	1 件
シティブランディング	7 件	ふれあいトーク	1 件
合併	4 件		

総務部（12 項目 67 件）

庁舎・施設管理	12 件	税金	4 件
市民対応	11 件	財政	2 件
桐ペイ	10 件	選挙	2 件
職員意識・働き	9 件	インターネット・スマートフォン	2 件
庁舎建て替え	6 件	納税	1 件
人事・職員管理・職員数	5 件	デジタル化	1 件

市民生活部（15 項目 40 件）

「市民の声」アンケート	10 件	スポーツ施設管理	2 件
球都桐生	6 件	防犯灯	1 件
交通安全	5 件	免許返納	1 件
ごみ関連	3 件	通学路	1 件
自治組織	2 件	お墓	1 件
防犯・治安	2 件	動物愛護	1 件
広聴・市民相談	2 件	公衆トイレ	1 件
消費生活センター	2 件		

保健福祉部 (10 項目 28 件)

桐生厚生総合病院	7 件	障がい者支援	1 件
生活保護	5 件	福祉全般	1 件
地域医療	4 件	国民健康保険	1 件
高齢者支援	3 件	成人保健	1 件
介護保険	3 件	福祉関連経済対策	1 件

子どもすこやか部 (2 項目 13 件)

子育て支援	12 件	青少年育成	1 件
-------	------	-------	-----

産業経済部 (10 項目 61 件)

観光振興	18 件	雇用対策・就労支援	3 件
商店街活性化	13 件	農林振興	3 件
企業誘致	12 件	重伝建・日本遺産	2 件
商業振興	4 件	産業振興	1 件
鳥獣害対策	4 件	道の駅	1 件

都市整備部 (9 項目 76 件)

道路整備・管理	32 件	住宅支援	3 件
動物園・遊園地	12 件	河川整備・管理	1 件
空き家・空き地対策	11 件	再生可能エネルギー	1 件
公園整備・管理	10 件	市営（県営）住宅	1 件
街路樹	5 件		

地域振興整備局 (2 項目 3 件)

カリビアンビーチ	2 件	新里支所	1 件
----------	-----	------	-----

水道局 (3 項目 13 件)

水道事業	9 件	水道料金	1 件
下水道事業	3 件		

議会事務局	(3 項目 7 件)
-------	------------

議員数・給与	5 件	議員職務	1 件
議会運営	1 件		

教育委員会教育部	(8 項目 25 件)
----------	-------------

学校施設管理	7 件	図書館	2 件
学校統廃合・新設	5 件	歴史・文化	2 件
学校教育	4 件	学校給食	1 件
教育支援	3 件	生涯学習	1 件

消防	(1 項目 1 件)
----	------------

消防	1 件
----	-----

その他	(5 項目 87 件)
-----	-------------

入札妨害・生活保護問題 に関する意見	30 件	どこにも属さない意見	11 件
市への批判意見	24 件	生活不安	4 件
市への応援意見	21 件		